

樹皮藥器
 急性腎臟病
 腎臟病
 尿毒
 血液症候群
 進行性腎臟病
 多血性腎臟病
 萎黃病
 血色病

腎臟病
 腎臟病
 腎臟病
 腎臟病

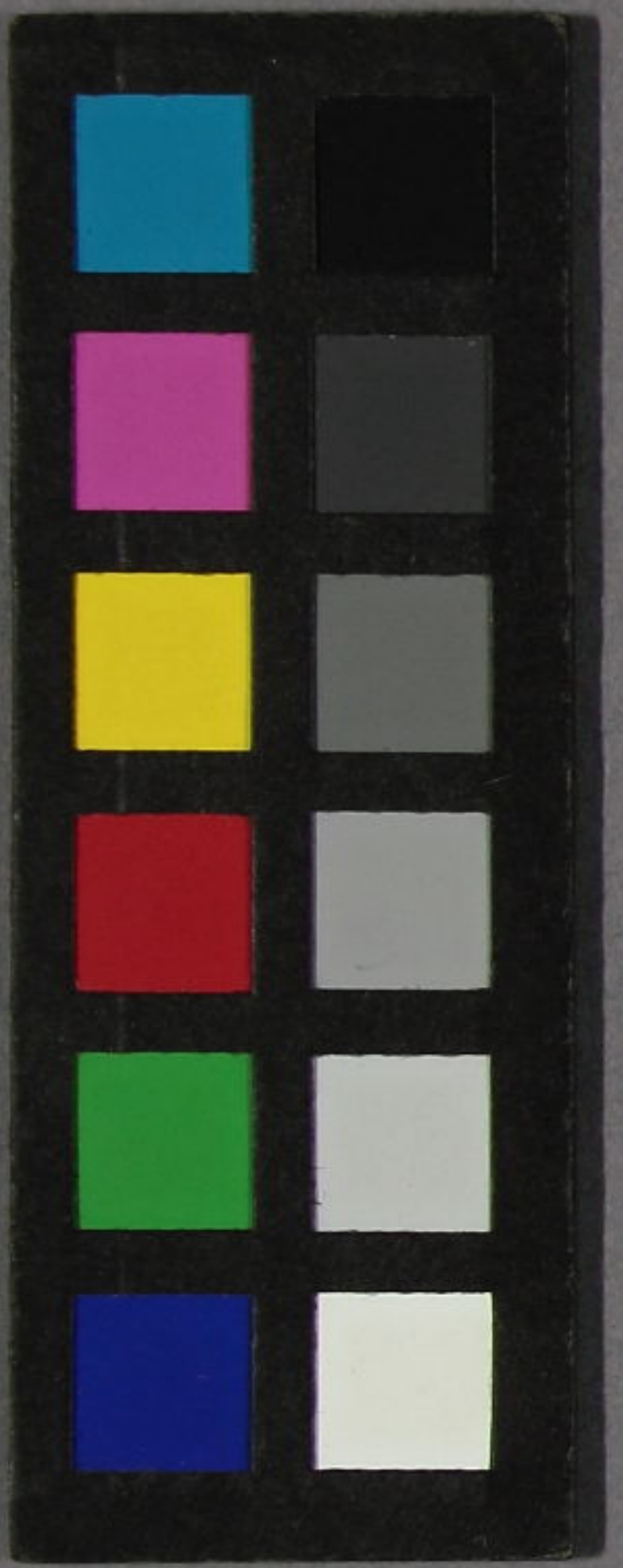
血友病

腎臟病
 尿病原因検査法

腎臟病
 腎臟病

腎臟病
 腎臟病
 腎臟病

特別
 14
 3159
 H39(4)
 早稲田大学図書館



△内科学 貧血の原因血液検査法及所見、
膀胱瘻の種類及び症候、泌尿器に於ける寄
生蟲の種類、診断△眼科学 亂視に就て記
す、眼球後視神經炎の原因及症候

14
3159
839(4)

第一編

泌尿器疾病

第一章

膀胱/疾患

第一 膀胱貧血

第二 鬱血腎

第三 急性腎炎

(急性) (1) (2) (3)

第四 慢性腎炎

第五 慢性腎間質炎

(原發性又真性萎縮腎)

附録 尿毒症

第二篇 全身病

第一章

血液疾患

第一 貧血

第二 進行性悪性貧血

第三 萎黃病

第四 白血病

(甲) 淋巴性白血病

(一) 急性淋巴性白血病

(乙) 慢性淋巴性白血病

(二) 淋巴性白血病

(四) 假性白血病

(乙) 骨髓性白血病

第五 血色素血

及血色素尿

第六 血色素尿或間歇性血色素尿

第六 小工儿才一ノ氏血斑病

(甲) 單純性紫斑病

(乙) 儀座腎新性血斑病 丙 空ルホ一ノ氏学斑病
第七 壞血病 (失苟見陪苦) 第八 血友病

第二章 脾臟疾患

第一 脾腫

第三章

新陳代謝疾患

第一 糖尿

第二 尿管病

第三 肥胖病 (脂肪過多症)

第四 佝僂病 (英吉利病)

第五 骨軟化症

第六 腺病 (瘰癧)

(甲) 鈍性腺病 (乙) 銳性腺病



第一編 泌尿器疾病

第一章 腎臟ノ疾病

第一 腎臟貧血

原因 腎動脈ノ閉塞 (栓塞) ニ由リテ發シ又汎發性貧

血高所性貧血由リテ發スルアリ 其他腎動脈ノ痙攣ニ因

スルアリ

一時性ノ腎貧血ハ腎ニ障礙ヲ殘サシテ持續性ノ貧血ハ

腎ノ變化ヲ來ス

症候 尿量減少シ甚キハ無尿トシ屢々蛋白血液

円球及細胞ノ尿中ニ現ルアリ

第二 鬱血腎

腎臟ノ疾病

原因 循環器並呼吸器諸病由リテ發シ稀ニ腎靜脈、鬱血ニ由リテ發ス

解剖 腎臓ハ増大シ往々其容積ハ三分ハラ増スルニ至リ暗赤色ヲ呈シ管壁硬ク包膜容易ニ剝離ス

症候 尿量減少シ其色濃厚ニシテ反應酸性ヲ呈シ比重ハ昇テ一〇三〇ニ達ス冷所ニ放冷スル煉瓦石樣ノ沈渣(煉瓦粉狀沈渣)ヲ生シ僅微ノ蛋白質アリ尿沈澱ヲ鏡檢スルニ血球沈澱物、尿酸塩類、円形細胞皮赤血球及固塊ヲ認ム

診断 尿ノ變化ト原因トニ注意スベシ

豫後 原因病ニ關シテ療法 原因療法 對症療法トシテ利尿劑、緩下劑及發汗劑ヲ用フ

第三 急性腎炎

(急性武雷第病)

原因 (一)熱性傳染病 何レノ傳染病モ本病ヲ發シ易キモ就中之ヲ起シ易キハ猩紅熱ナリトク急列刺流行性感冒、実扶地果、傳染性アシギナ、ワイル氏病ニモ亦屢々本病ヲ發シ其他水痘、流行性耳下腺炎等、如キ輕キ傳染病ニモ本病ヲ發スルコトアリ

二 中毒

(一)体内ニ於テ生理的又ハ病的ニ生シタル毒素ニ由リテ本病ヲ發スルコトアリ例之ハ胆汁、殊ニ胆酸、ウロトキン、アソトニ等ノ如シ

(二)藥劑ノ内服及外用 例之ハテヒン油ノ内服、ハインバール

カ、塗布等

(3) 香料及嗜好品

(4) 塩酸加里、如き血液ノ変化ニ由リテ本病ヲ発スル傷

ニ本病ヲ發スルモ亦同一ノ原因ノ為ナリ

(三) 慢性皮膚病(濕疹、天疱瘡等)

(四) 往々感冒ニ由リテ本病ヲ發スルヲアルヲ疑ナシ(感冒

性腎炎)

(五) 妊娠

解剖 腎臓ノ容積増大シ且重量ヲ増ス包膜強ク

緊張シ薄クシテ容易ニ剝離シ得ベシ急性炎ハ外觀

ニ由リテ充血腎又ハ出血腎ト負血腎ト區別ス此

兩者ノ中間モノヲ斑色腎トス

腎臓ノ変化ハ鏡檢ヲ要ス其變化ハ主ニ皮質ニ存シ其

細尿管或ハ絲球ニ存ス細尿管性腎炎ハ多クハ傳染

病ニ由リテ發シ絲球性腎炎ハ猩紅熱ニ続發ス

○上皮ニ發スル變化ハ(一) 瀰漫性腫脹(二) 脂肪變性

(三) 上皮ノ壞疽等ナリ或ハ血管炎ヲ發スルヲアリ

△症候 (甲) 細尿管性腎炎 尿ノ變化微小ナルヲ以

テ時々之ヲ看過スルヲアリ尿ハ減少シテ濃厚トナリ帶

褐赤色ヲ呈シ上皮ヲ含ムルヲ以テ瀰漫性上皮ノ剝離

多キヲ脱皮性腎炎トス尿中ニ上皮ノ他硝子標四

塊尿酸及尿酸石灰結晶赤血球等ヲ含ム正蛋白

反應微弱ニシテ其大部分ハ消失シオアルブミン

成ル

乙) 猩紅熱等ニ發スル汎發性腎炎ハ重症ニシテ尿ノ
變化及水腫ハニ至微アリ

尿量甚ク減少シ時トシテ一時全ク閉止ス尿中ニ殆
ド常ニ血液ヲ混ジ其含量多キヤ肉汁色ヲ呈ス
尿ヲ換スルニ蛋白質反應アリ正蛋白ハ主トシテ血清
蛋白及血清グロブリンナレバマクレオアルブミン及アル
ブミンゼラミン含有ス

沈渣ヲ檢スルニ赤血球白血球上皮各種円球及尿
酸及若クハ尿酸石灰ノ結晶ヲ含ム

浮腫(腎性浮腫)ハ顔面殊ニ眼睑ニ來リ之カ為
下眼瞼ハ囊狀ニ膨脹ニテ透明トナリ往々紅色ヲ帶フ
浮腫ハ漸次全身ニ波及シ殊ニ下肢及生殖器(陰囊

陰莖陰脣)ニ於テ最モ甚シ其他漿液腔腔ニ水腫ア
リ甚ク空テニ粘膜ニモ水腫ヲ見ヌ

腎臟部ハ疼痛尿意頻數各種消化器障礙等ノ症
候ヲ發スレバ何レモ固有ナラズ

多少全身症候アリ往々發熱ス内臟炎症肋膜炎心
囊炎氣管枝加卷兒肺炎等ヲ發スルコトアリ心濁音部
右方ニ擴カリ脈搏強ク緊張ス

△經過 凡ソ數週間テ治癒ヲ轉歸ヲ取ルモノ多シ

△豫後 本病ノ經過中ニ危險ノ症狀ヲ發スルコトアリ
又往々慢性ニ移行スルコトアルヲ以テ豫後ヲ定ムルニ注意
ヲ要スセド多クハ良ナリ

○本病ノ危險ナル症候ハ(一)重症ノ全身水腫殊ニ漿液膜

水腫(二)漿液膜及内臓炎症(三)浮腫セル部分より發スル
丹毒(四)声ノ水腫及肺水腫(五)尿毒症ナリ

△**診断** 原因ハ証明固有人浮腫及尿ノ變化ニ因ル

△**療法** 豫防法 皮膚病ノ治療ニ注意スベシ猩紅

熱患者ハアマリ早ク起立セシムベカラス

原因療法 微毒ニ驅徴療法ヲ行ヒマラリアニキニ

トネラ與フベシ

對症的療法 既ニ本病ヲ發スル最モ養生法ヲ注意ス要

ス患者ハ必ズ褥上ニ安臥セシメ決シテ運動セシムヘカラス食物

ハ粥牛乳肉羹汁ノ如キ腎ヲ刺戟セサルモノヲ與ヘ香料

酸茶、咖啡、食塩、酒等凡テ腎ヲ刺戟スルモノヲ禁ス

牛乳療法、古ヨリ稱用セラル

浮腫ニ溢ニ強キ利尿劑ヲ用スルカラス是却テ腎ヲ刺戟スル
害アルヲ以テナリサレド醋酸カリウム、醋酸曹達、ヂウレチ
ン甘汞等ノ如キ緩和ナル利尿劑ハ往ニ用スベキトアリ
利尿劑ヨリモ他ノ方法ニ依リテ水分ヲ排泄ヲ促スル可トス
之カ為ニ下劑又ハ發汗法ヲ用フ、發汗法ニ塩酸ピロ
カルビン、如キ藥劑ノ注射ヲ用ヒ或ハ器械的例之ハ發
汗セルル装置ヲ用フ

水腫去ラサレハ皮膚ヲ亂刺スルニサレド周到ニ防腐
法及清潔法ヲ行ハザレハ創所ヨリ丹毒ヲ發スル虞
アリ

第四 慢性腎炎

慢性腎炎

原因及病理 稀ハ急性ヨリ轉スルアシ凡多ク始
ヨリ慢性症トシテ現ル 其原因尤ノ如シ

(一)慢性感冒 湿润及寒冷ノ持續シ又ハ反覆スル例
之ハ湿氣アル場所ニ於ケル住居水中又ハ湿地ノ受働
等

(二)慢性重症疾患(结核、マラリア、梅毒)

(三)心臟病 (四)慢性中毒(酒精)

凡テ生活ノ不衛生的ナル者ハ本病ニ罹リ易シ

解剖 腎臟増大シテ蒼白色赤色又ハ斑状ヲ呈ス

病変ハ皮質ニ現レ細尿管上皮ニ溷濁、腫脹、脂肪變性、
壞死及剝離等ノ變化ヲ現シ絲球モ亦變化シテ上皮ハ

腫脹、脂化及剝離等ヲ起ス

腎結締織ハ膨脹シ或部々ニ於テハ細胞ノ增殖及円形

細胞ノ堆積ヲ見ル

本病ノ解剖的變化ハ尤ノ如ク區別ス

(一)巨大白色腎 腎臟ハ腫大シテ其表面平滑トナリ包

膜ノ容易ニ剝離シ得シ擴張シタル皮質ハ黃色ニシテ

多クハ網ノ斑点状ヲ呈スレ凡圓錐鉢ハ常ニ稍ハ潮紅ス

(二)巨大赤色腎 又ハ巨大斑状腎 腎ハ腫大シテ固ク

包膜ニ屢々表面ト癒着ス表面或ハ平等ニ灰赤色ヲ呈シ

或ハ暗紅色部(出血部)ト鮮灰白色部若ハ黃色部(多血

且脂化シタル部)ト相交錯シテ斑状ヲ呈ス

(三)統漫性萎縮腎(斑状腎)腎ハ略々常大ニシテ表面

ニ輕微ノ顆粒アリ此顆粒ハ腎臟組織煙滅シ新生結締

織一部分、既ニ瘢痕性萎縮ヲ起シ甚微ニテ第一、第

浮腫

二兩種、變化ノ末期トナリタモテナリ
腎斑状ヲ呈シ紅色部ハ陷没シタル消削部(患部)
ニ應ジ灰白部又ハ黄色部ハ隆起部(健部)ニ應ジ
腎臓外心臓左室ハ肥大スルヲアリ
症候 発病極テ徐々ニテ看過サル下多シ或ハ
不明ノ症候即チ身体ノ倦怠、食思缺乏、頭痛等ヲ
發スルニ由リ又ハ尿ノ溷濁ニテ泡沫ヲ生スルニ由リテ醫師ノ
念ノ為ニ尿検査ヲ行ヒテ之ヲ發見スルヲアリ
浮腫ハ必要ナル症候ニシテ始メニ顔面次ニ他ノ皮膚ニ發
ス律ニ漿液膜腔ニモ滲漏液ヲ生スルヲアリ時トシテハ声
門水腫又ハ肺水腫ヲ發ス慢性症ニ於ケル水腫ハ急性症
ヨリモ常ニ高度ニ達ス

尿ノ比重昇騰

顔面ハ常ニ蒼白ナリ故ニ顔面蒼白ノ患者ハ宜シク尿ヲ檢
スベシトノ語アリ
主要ノ徵候尿ノ性状ニテ尿量ハ常ニ減シ比重ハ昇リテ
多クハ一〇二〇ヲ超工律、一〇四〇ニ達ス反應多クハ
弱酸性ニシテ放置スルハ中性又ハアルカリ性ニ變シ色ハ尿
量ニ應ジテ帯緑淡黄色乃至赤色又ハ黄赤褐色
ヲ呈シ多ク血液ヲ混シタルハ肉汁色ヲ呈ス
尿ニ蛋白質含量平均日量二〇乃至八〇ニシテ一〇、
〇ニ達スルヲ稀ナリ
尿沈渣ヲ檢スルニ各種円塊脂肪顆粒細胞上皮
及赤血球ヲ見ル
其他ノ症候顯著ナクモハ次ノ如シ

消化障碍 食欲不进、悪心、嘔吐、便通不整、下痢等ヲ發ス

神経症候 頭痛、精神不快、不眠症等ヲ發ス、是等ノ症候ハ尿毒症ニ関スルコトアリ

蛋白尿性網膜炎 時トシテハ本病末期ニ起ルコトアリ 往々心臓尤モ肥大擴張ス 血液多クハ變化セシ

経過 數月乃至數年ニ亘ル其永キモノ殆ト皆続發性萎縮腎ナリ

豫後 不良

診断 顔面蒼白、腎性浮腫及尿ノ變化由リテ通常本病ノ診断容易ナリ

療法 豫防法 酒類及香料ヲ避クベシ

原因療法 梅毒療法ヲ行ヒマリアニハキニ、ネヲ用フ

對症療法 腎ヲ刺戟スル藥劑等ヲ避ケ成ルヘク病腎ヲ保護スベシ即チ腎作用ヲサグシ且尿排泄器械的障碍(山崎腫脹セル上皮、滲出液等)ヲ除去シ

血行ヲ佳良トスル 腎ノ作用ヲ減スルニ患者ヲヒテ、安座若クハ平臥セシムルコトナク

栄養食品 腎ヲ刺戟セサル物ヲ喫ヘ蛋白質ノ攝取ヲ節減シ之ニ換ヘテ含水炭素及脂肪ヲ與フベシ、食物

中最良ナルハ牛乳ナリ(是牛乳ハ容易ニ消化シ數幾

斯分少ク且利尿ノ效アリテ腎ヲ洗ヒ固峙等ヲ除去スル利トナリ其他牛乳ノ蛋白含量、肉量ニ比スル甚ク僅

牛乳

微在ラ以テ之ヲ用フレハ蛋白質ヲ節シ得ベシセト牛乳療
法ハ牛乳ノ脂肪及含水炭素ヲ含ムルカキト久シク大
量ヲ用フレハ嫌悪ヲ来シ鼓腸便秘又ハ下痢ヲ受ル
ヲ以テ唯一定時間之ヲ行ニ得ル又牛乳使用時ニ齒
牙ノ清浄ニ注意セシハ齧齒ヲ吞スル恐アリ肉類ハ猪
羊豚鳥肉等凡テ白色ノ肉ヲ可トス是其中ニ越茲斯
ル及ブトマイシラ含ムルサキヲ以テナリ魚肉モ亦赤肉
リモ白肉ヲ可トク生卵ハ本病ニ害アリ若テ用スレ
脂肪含炭素及果實(葡萄等)ニ用テ可ナリ
水分節減スニ及ハス十分ニ與フル
余(井上氏)ハ往々精製酒石ノ大ニ奏效スルヲ實驗シ
タリ

患者ハ感冒ニ罹ラレヤリ注意スルニ
温浴ハ汗ノ外ニ效アリヤ疑ハシ
氣候療法トシテ乾燥セル暖地ニ轉スルニ效アリ

第五 慢性腎間質炎

(原發性又真性萎縮腎)

△原因 血液ノ變化ニ由リテ直接ニ腎ノ刺戟セラルル為ニ
奈スルヲ原發性萎縮腎ト云ヒ動脈硬化ノ為ニ間接
ニ腎ヲ刺戟セラレテ及スルヲ動脈硬化性萎縮腎
若シハ腎硬結ト稱ス動脈硬化ヲ奈スル凡テノ原因ハ
本病ノ原因トスル
本病ノ原因ハ(一)痛風(二)鉛中毒(三)酒類ノ濫用(四)
)

糖尿病(五)徵毒等ナリ

本病、中年並ニ殊ニ老人ニ多ク、男性ニ多ク

遺傳モ亦多少關係アルカ如シ

解剖 腎臟、縮小シ時トシテ、常容ノ二分ノ一ニ下リ重量

モ亦減シテ五十瓦以下トナルヲアリ腎ノ表面顆粒狀ヲ呈

シ(顆粒腎)色ハ濃クシテ赤色又ハ赤褐色ヲ呈シ或ハ

淡クシテ灰白赤色又ハ灰白黃色ヲ呈ス故ニ赤色萎縮

腎及白色萎縮腎ノ名アリ顆粒部ハ腎實質ノ變化

セナル部ハ應ニ陷没セル部ハ腺間結締織ノ痕痕接

ニ收縮セル部ニ應ス顆粒ノ間ニ腸針頭大ナル櫻実大

囊腫アリ包膜ハ癒着ノ為ニ剝離ニ難ク皮質狹小ト

ナリ腎ヲ切開スルニ甚ク硬固ナリ腎動脈ハ硬衰ヲ呈ス

腎

- 一 肉眼的變化
- 二 腎容積ノ縮小硬化
- 三 表面ニ於テ顆粒形成
- 四 被膜癒着
- 五 皮質狹隘 其他
- 六 腎表面及皮質ニ於テ透明或ハ濁濁
- 七 血液ヲ充實セル
- 八 小囊腫ヲ生スルヲ見ル

心臟、動脈

トアリ

心臟肥大シ屢ハ動脈硬衰ヲ見ル

症候 本病、甚ク緩徐ニ發生スルヲ以テクニシテ、認知セシガ

トアリ、此時期ニ於テハ唯一ノ症候ハ蛋白尿ナリトモ常ニ

持続シテ存在ス

原發性萎縮腎(壯年者ニ屢ニ見ル所謂少年性

萎縮腎)ハ甚ク徐クニ發生シ時トシテハ尿ノ變化ヲ現

ハシ次テ尿量增加シ殊ニ夜間ニ於テ尿意頻數トシ

漸次ニ心臟肥大ヲ及ビ動脈血圧亢進ニ往テ、腦出血、血

塞及栓塞ヲ及ビトアリ本病ハ慢性腎友ニ固有シ

腎臟水腫ハ多ク、缺如クセト末期ニ至ルニ、鬱血性水腫

ヲ及ス

動脈硬化性萎縮腎、心臓肥大及動脈、肥厚擴張アリ又心性喘息ヲ發ス次ニ尿ノ變化ヲ来スシ多尿症ヲ發ス尿白尿ハ遲ク發シ輕シテ屢々暫時又ハ久シク消失スルコトアリ

萎縮腎ニ尤ノ三主徴アリ

(一)尿ノ變化 尿意頻數アリテ始メ夜間ニ現ル、モ後ニ晝間ニモ現ル尿量ハ增加ス患者ノ医家ヲ訪フ、此症ヲ渴ト為テラフアリ二十四時間ノ尿量平均ニ〇〇〇乃至三〇〇〇立方仙迷ナリ

尿ハ稀薄透明、反應ハ弱酸性ニシテ比重輕シ(一〇一〇内外)正蛋白質ノ含量ハ少ク微量ヨリ〇、五%ノ間ニシテ一日量二三瓦ニ止マリ十瓦ニ達スルコトハ甚ク罕ナリ夜間又ハ

朝起時ノ尿ハ蛋白質ヲ含ラス晝間ニテモ安靜時ニ正蛋白ヲ缺キ勞働、食事及精神感動由リテ之ヲ現ハスコトアリ

尿ノ沈渣ハ缺如シ或ハ微少ナリ之ヲ鏡檢スルニ尿管垢上皮白血球、尿酸及磷酸石灰ノ結晶ヲ認メ甚クハ赤血球ヲ見ル

(二)心臓及血管ノ變化 屢々心臓肥大ヲ發ス其肥大ハ主ニ左室ナリ之カ為ニ境骨動脈著ク緊張ニテ硬實トナリ脈波ノ彈力性隆起甚ク著明ニテ逆衝隆起僅微ナリ

心臓肥大及動脈變化ノ結果トシテ頭痛、眩暈、胸内苦悶、心性喘息並ニ腦出血、血腸出血、腎出血及皮膚出血等ヲ發ス

(三)眼ノ變化 蛋白尿性網膜炎ハ診斷上緊要ナル症

出血

候なり

△經過 數年

△豫後 不良

△診斷 尿變化 心肥大 及 眼底變状 三主徴あり 本病

ノ診斷容易ナリ

○鑑別診斷 (一) 續發性萎縮腎 續發性 既往ノ經過中

ニ 高度ノ浮腫 (即チ慢性實質腎炎) ヲ及ビ 尿量異常

以上ニ 超過スルナク 間質腎大ニ 比スルハ 比重稍高

蛋白質及尿沈渣モ亦多量ナリ

(二) 糖尿病 (三) 尿管症

△療法 本病療法ノ原則ハ慢性腎大ノ療法ニ

異ラス

附録

○ 尿毒症

本病ハ腎臟若シ疾患ニ陥ルハ体内ニ於ケル有害物質ヲ尿ト
共ニ体外ニ排泄スル下能ハルニ由リ發スルモノニテ多ク尿量減
少セシ際ニ現ハルト雖モ又尿量多キニ係ラス大ニ然末ル下
ナリ

本病ヲ區別シテ輕症及重症ノ二トス

輕症ニテリテ頭痛 嗜眠状態 不安状態 恐怖及苦悶

感覺 呼吸促迫 惡心 痙攣性嘔氣 嘔吐 筋肉痙攣

顔面或ハ四肢強直等ヲ来ス

重症ニテリテ尿毒症急痙ヲ發ス即チ強直性痙攣ヲ以テ

起始シ四肢及顔面ニ於ケル間代性痙攣等ニ次ギ血株

輕症及重症

急痙

○ 尿毒症

泡沫ヲ吐出シ、顔面、紫藍色ヲ呈シ、瞳孔ハ散大シテ反
應ヲ失ヒ呼吸ハ促迫シ、脈搏ハ頻數且細小ナリ、体温
ハ屢々昇騰ス、或ハ四肢ニ於ケル搐搦ヲ以テ起シ、半身ハ
他ハ半身ニ比シ強ク侵サルコトアリ、數分ノ後漸次痙攣ノ
緩解ヲ来シ次テ深キ昏睡ニ陥リ、鼻息呼吸ヲ呈ス、
痙攣ノ反復スルヲ常トシ、二十四時間ニ二十回以上ニ達スル
コトアリ

又尿毒症ニ内障、重聴、耳聾ヲ来シ、單癱、偏癱、
痙攣、振盪運動、鼻血等ヲ発シ、譫語、躁狂若クハ
鬱鬱憂狀態等ヲ招来ス

血中ノ尿素ハ胃腸皮膚ヨリ排泄セシ、頑固ノ嘔吐下
痢、皮膚瘙癢等ヲ来ス、脈搏ハ遲徐トナリ、緊張スルモ

全身痙攣ヲ受ケ、頻數且細小ニ變ス、軀温時トシ
テ四十一度乃至四十二度ニ昇リ、或ハ三十四度乃至三十
六度ニ下降シ、或ハ惡寒ヲ以テ昇騰自シ直ニ正常復
スルコトアリ

呼吸困難

呼吸ハ屢々促迫シ、或ハ困難トナルコトヲ尿毒症呼吸困難、
或ハ尿毒症呼吸息トシテ

症状現出ノ急劇ナルト後慢ナルトニヨリ急性及慢性
症ヲ區別ス

急性及慢性

急性症ハ重篤ノ症状殊ニ痙攣、昏睡、及昏睡ヲ呈シ、一
二日ニシテ経過スルモ慢性症ニハ輕度ノ脳症状、嘔
吐、呼吸困難等ヲ来シ久時ニ亘ルモノナリ

本病ト鑑別ヲ要スル疾患ハ、脳膜炎、粟粒結核、

腸管、扶斯、敗血膿毒症、腦脊、血、腦腫瘍、糖尿
病昏睡、中毒（阿片及酒類等）ナリ。腦腫瘍、頭部
強直、脳神経症状及腹部舟搖陥没等ヲ有シ
腸管、扶斯、蓄膿疹、脾臟腫大、ウサダ、心氏反
應等ヲ呈シ、敗血膿毒症ニ惡寒、間歇性熱候、
多クハ、急性病竈ヲ認ム。腦出血トシテ、尿中ニ於
ケル蛋白及固柱、証明シテ、腦腫瘍ハ、乳頭癩瘻
ヲ呈シ、糖尿、尿病昏睡、尿ニハ、葡萄糖之巨ム、中毒ニ區
別スルニ、既往症ヲ考ヘ、尿及眼底検査ヲ行スル
豫後 原因的疾患ニヨリテ、差アリ、萎縮弱ニ於ケル
ハ、最不良ナリ

療法 原因的疾患治療ヲ專ラシ、牛乳ヲ與

（利尿劑、發汗劑若シテ、下劑ヲ處シ、生理的食塩水、灌
腸又ハ皮下注入法ヲ行フ）

急性症ニ於テハ、脈搏良ナルハ、刺絡ヲ試シ、不良ナルハ、
芟多利斯、ストロム、コッフス下劑、錫布羅等ヲ與フシ、

嘔吐及下痢、有毒物質ヲ射外ニ排泄セシムル自然の
機能ナルヲ以テ之ヲ抑セサルヲ可トス。之ガ為メ甚シキ
疾苦ヲ懷セバ、氷塊、モルヒネ、阿片、古加乙涅、コロト
ルホム等ヲ投スル

痙攣ナリハ、モルヒネ（同時ニカコフル）コロトルホム、抱水
カコルラ處シ、頭痛ハ、神経系藥、臭素加美、安知
必林等ヲ用ヒ、食糧不振ハ、塩酸ヲ投スル

第二篇 全身病

○第一章 血液疾患

第一 貧血

△原因 赤血球ハ減少ニ由リテ起ル 而テ其赤血球ノ減少ハ多ク血球ノ死滅シ若クハ赤血球生理的新生ノ不充分ニ由ル

赤血球ノ死滅ヲ来スル 出血ニテ外傷、生理的及病的出血(月經、痔出血、十二指腸潰瘍病等)ノ場合ニ多ク血ヲ喪フ又或毒素作用(台儿酸加里傳染病毒)ニ由リテ血球崩潰セリテ(血球崩潰症)貧血ヲ来ス 赤血球生理的新生ノ障礙セルモ亦多ク血ヲ喪フ消 化不良、栄養不給、空氣日光ノ供給不充分、運動不

足指及身体各部諸種ノ慢性疾患亦然リ
症候 皮膚及粘膜ハ蒼白色ヲ呈ス(此蒼白色ハ
貧血ノ度ニ關シ)患者運動スルハ容易ニ呼吸促
心悸亢進ヲ呈ス 屢ニ頭痛眩暈耳鳴惡心
嘔吐ヲ現ス

貧血ノ増進スルニ共ニ脱力シ倦ム事ヲ覺ス全然就
褥セザルヲ得ザルニ至ル

他質的検査ニ依リハ心濁音増大シ心尖及肺動
脈ニ收縮期的雜音ヲ聴取ス呼吸ハ運動ニ由リテ劇
シク催進シ屢ニ消化障害アリ

血液検査 血液水分ニ富ミ赤血球ノ數減少ス

血球ハ多形モアリ(多形赤血球)有核モアリ(通常有核

赤血球)或ハ其小者モアリ(省核赤血球)稀ニハ其巨大者
アリ(巨大有核赤血球)

白血球ニ大ナル變化ナキモ屢ニ多核中性嗜好性細胞ノ
増加セラル見ル

經過 原因ノ過性ナル持續性ナル後ニ急性或ハ
慢性ノ經過ヲ取ル

診断 通常容易ニサド貧血ノ原因ヲ見出ス
一ラ勉メザレバカス

豫防 貧血ノ原因及度ニ關ス

療法 原因明カレバ原因療法ヲ行フ 勿レ其

原因ニ指賜ナキハ駆逐療法ヲ行フ如シ

患者ニ精神及身體ノ安靜ヲ守ラシメ滋養ニ富ム

食物ヲ攝ラズ

藥劑 トシテハ鐵若シハ砒石ヲ用フ

近時 (モロヒト) (日量五乃至一〇〇) (モロヒト) 錠 (一日

四錠 一日三回) フェラト (一日三回) 〇〇乃至一〇〇) (

トゲン) ヲ用ス

出血量多クシテ生命ニ危険アル時或ハ上下肢ヲ結縛シ
テ必要ニ腕蓋ノ負血ヲ防キ (自家輸血法) 或ハ健康
者ノ血液ヲ採取シテ其鮮血ヲ直ニ靜脈管内若クハ皮
下ニ注射或ハ健康者ヨリ血液ヲ依リテ二三百立方仙
迷ノ血液ヲ採リ其纖維素ヲ除去シ濾過布ニテ濾過
シテ靜脈内ニ輸血シ (輸血法) 或ハ生理的食塩水近時
ハ名食塩。ニ名糖酸ナリ血ノ滲漏) ヲ靜脈或ハ皮下ニ注入ス

第二 進行性惡性貧血

惡性貧血トハ原因ハ未ク詳クシテ誘因ニ身體及精神ノ急

死ニ轉昇ス重 劣ノ良ノ居住、粗悪ノ食物、久時ノ授乳、七液ヲ

症貧血ヲ云フ 之未多貧血爲本病、中年ノ者ニ多ク且ツ女子ニ稍多キカ也

ノ潜伏シテ原因 次、於テモ稀有ニ疾病ニ本邦ニ於テハ更ニ稀ナ

的治療ヲ施シ 症候 本病ノ症候ハ單純性貧血ノ程度増加セ

ラザル也、血ニ 性多量ノ觀ヲミルニシテ皮膚及粘膜ハ蒼白色ヲ呈シ皮下組織ハ多

スリテ、骨 骨ニ酸痛ヲ呈ス、性ニ胸骨及腕

骨ニ酸痛ヲ呈ス、性ニ胸骨及腕 連者運動時ニ速ニ疲労シ、心悸亢進、呼吸困難、頭

痛、眩暈、耳鳴、視界ノ暗黒、悪心、嘔吐アリ、性ニ失

神スルヲアリ、心臓ニ多量ノ雜音ヲ聽キ、頸靜脈ニ

進行性惡性貧血

トシテハ鐵若シハ砒石ヲ用フ
近時 (モロヒト) (日量五乃至一〇〇) (モロヒト) 錠 (一日
四錠 一日三回) フェラト (一日三回) 〇〇乃至一〇〇) (

網膜出血

獨樂音ヲ聴ク時、消化、陰碍アリ便ハ多ク、秘結ス時
トシテ、膀胱、腫大ニシテ、嗜睡、不吐、譫語、驚悸
躁狂、知覺及運動障礙アリ、神經痛候ヲ著スル
アリ、皮膚及粘膜、出血アリ、屢ニ、血、齒齦出血アリ
見ル、殊ニ、本病、鑑別的標徴トナスコトハ、
網膜出血アリ、血、性、少量、蛋白ヲ含ミ、内トシテ
凝キ、シトクモ、反應ヲ与ス、而テ容易ニ、熱、其、易キ
傾向アリ、其、熱型、不定ナリ、血、淡紅トナリ、凝固性ニ
乏シ、赤血球、減少シ、其、通常量、半量トシテ、尚、輕症
ニシテ屢ニ、三方密達、白血球、數、百萬ニ減スルナリ
血色素量、比シテ、赤血球、減少スル、本病、於テ、特異ノ
血ナリトス、赤血球、大小並ニ、形狀、不同ニシテ、多ク、赤血球

小血球、巨大血球、通常有、核、赤血球、巨大有、核、赤血球、ア
リテ、後者、本病、特異ナリ、而テ、赤血球、多ク、係、著、變
性ヲ呈シ、エオジン、ヘマトキシリン、溶液ヲ以テ、所、在、在、赤
白血球、一部、エオジン、赤色ヲ呈ス、而シテ、帶、著、毛、ヲ、呈、ス、
ル、ナリ、或、赤血球、中、顆粒ヲ、生、ル、ナリ、(斑、点、状、赤
白血球)
白血球、其、數、ヲ、減、ズ、(白血球、減少症)セド、其、形狀、ハ、大
ク、變化、ス

解剖 緊要ナル病變ハ、諸、内、臟、貧、血、ト、脂肪、變、性
ト、リ、後、者、殊、ニ、心、臟、ニ、於、テ、顯、著、ナリ、其他、諸、内、臟、ニ、於
テ、出血アリ、ク、イ、シ、ケ、氏、ニ、依、テ、諸、内、臟、ニ、於、テ、細胞、内、ニ
多量、鐵、質、沈、著、シ、殊、ニ、肝、臟、ニ、於、テ、顯、著、ナリ、ト、シ

赤血球多し尚壞し肝臓に沈着するものあり
経過及豫后 慢性進行性にして多しハ
一年以内 豫後、不良シ

診断 容易ナク、多量に減少する其原因ヲ
認メザル 網膜出血、眼底中ノ巨大赤血球及巨大
有核赤血球存在、巨色素減少此レ赤血球ノ
著しく減少するに依り多量病ヲ診断下し得ル
キモ、往々之に腫腫、結核、十二指腸癌、皮膚ノ癩頭
係數、梅毒病ト區別ヲ断ラ難スルナリ

療法 振生食餌療法ヲ行フ
内服 其中量ヲ減じ、**西鐵**放り、**其他鐵**
劑、矯治法ヲ用ル。又巨色素製劑（モロヒシ

ハトケシ）ヲ用ルナリ
往々輸血法、食塩水注入法、及酸素吸入法ヲ行フ
近時臟器療法ヲ施し骨髄製劑ヲ用ルナリ

第三 萎黃病

本病の起るは
二大原因あり
一、**原因** 血液中毒素減少症にして主として**春期**
發動期、**原因** 未詳ナリ、屢々遺傳血族的关系アリ
二、**原因** 食餌不良、光線及空氣不足、居
住運動不適當、**杖**踏む衣類、**枯**中する等ナリ

症候 罹患者ノ顔貌ハ蒼白シ、**最**初ニ口唇
及眼瞼に現れ、皮膚ハ蒼白色ニシテ少シク**黃**綠色ヲ
帯ブ（是レ萎黃病ノ名ニ由ル）

血液は冷紅にて凝固性が高、白色素ノ量、若くは減少し、(体温低、少くとも) 血中ノ赤血球數モ亦減少ス。但其減量、多クとも一ニ出ス。之ニ比シ、白色素ノ減少、多クとも、故、白色素ノ減少

白血球大ニ變化ナシ、血中ノ鉄、亦減少シ、其他ノ病候ハ血液ノ變化ニ基テ同シモノニシテ、全身保無シ、(身体ノ働作ヲ嫌厭シ、少クも運動ニ由リテ呼吸促進、心悸亢進、發汗ヲ甚ク、循環器、脈搏、輕易、ハ運動、由リテ増加シ、若シハ其以上ニ達ス、自覚的、及他覚的、心悸亢進

アリ、屢々、心尖及肺動脈部ニ於テ收縮期ノ雜音ヲ聽テ、稀ニハ、濁音部、増大ス。アリ、(貧血性雜音) 頭動脈、強ク搏動シ、時々ハ動脈音ヲ甚ク、又頸靜脈、獨樂、主日ヲ聽テ、後々衰弱性血塞ヲ察ス、足踝若クハ眼瞼ニ僅微ノ浮腫アリ、患者冷感ヲ訴ヘ、好シテ身体ヲ温ケス、呼吸器、呼吸數增加シ、運動ニ由リテ呼吸促進ヲ來ス、後々、結核ヲ疑フコトアリ

消化器、屢々、其ノ訴ハ、食慾、或減退シ、或却テ亢進シ、加之、酸性ノ食物ヲ好シ、或、飲食ニ適セザル物、若クハ食スベカラサル物、例之ハ、白堊、黒汁、等、(果嗜症) 而シテ、患者胃部、圧重、及疼痛ヲ訴フコトアリ

- 鑑別疾患
 - (一)腸寄生虫因る貧血
 - (二)結核
 - (三)單純貧血
 - (四)腎臟疾患
 - (五)正當結婚ヲ為サレシメ少クハ妊

早ニ諸般ノ臨床的検査ニ依リハ塩酸増加ストリテ
 本病ニ於テ因形胃潰瘍ヲ續発スルコトアリ便ハ多ク
 分泌ス又睪腺腫大ニシテアリ
 生殖器 屢生卵管發育障礙、月經障礙或ハ
 白帶下アリ

泌尿系統 頭痛眩暈耳鳴重聽神經痛神經衰
 弱等ヲ發スルコトアリ

尿ハ透明水様ニシテ稀ニ輕微ノ蛋白ヲ含ム

射温 ハ多クハ變化ガルモ時トシテ輕微ノ發熱ヲ見ルコトアリ

經過 多クハ數週若クハ二三月ニシテ治スルモ時トシテ

頻回再發シ慢性ノ經過ヲ取ルコトアリ

豫后 一般善良ナリ

△**診断** 妙齡處女ヲ侵スル貧血、血液中血色素或

少生殖器發育障礙、月經障礙、多量之ニ拘ルハ他臟

器ニ變化ナキ治療ヲ奏スルコトヲ以テ診斷容易シ

△**療法** 内服藥中最も有效ナル**鐵劑**ナリ其效カク

奏スルハ**血液製造**ニ供セリ、為ニアズルニシテ**造血器官**

ノ刺激劑トシテ作用スル由ニ

鐵製劑ハ即チ一鐵粉、還元鐵(二)サト極性及有極性

亞酸化鐵(三)サ極性有極性酸化鐵(四)鐵蛋白化合物及鐵

ピント化合物(五)有極性鐵化合物ニ種々製劑アリ就中

鑛鐵ヲ多ク含有スルハカルニ左ルリニシテ三十%ノ鐵ヲ

有シテエラチハ六乃至七%ノ鐵ヲ有スル(六)金鐵鑛泉ニシテ

重碳酸或ハ硫酸鐵ヲ含有スル物

以上藥劑中多含有...
 (一) 日三四回(二) 硫酸鐵、溶製合硫酸鐵(一日三
 回半茶匙及同一茶匙之水混合用之) 乳酸鐵(〇、三乃至
 〇、七五ヲ散劑若丸劑トス) 林橋鐵下炭(一日三四回十滴)
 蛋白化鐵液(一日三四回一茶匙) 亦用之
 鐵劑ニ他ノ藥物ヲ併セ用フ事アリ而チキリ不ケシ
 チアナ、越級時、其營養致劣ナリ
 鐵劑ニ決テ用ラズルハ、砒酸ニシテ或ハ單質鐵ニ鐵
 劑ニ併シテ用フ其他硫酸、沃度劑(注多鐵金劑ハ注至カキ
 ヲ用ルニナリ)
 高地氣候、骨髓、脾臟、卵巢子、腺、各種療法及衛生
 的食餌的療法(新鮮ノ野菜、果實、鶏卵、肉類) 亦當擧ゲテ

○鑑別疾患

- (一) 白血球増多症
- (二) 結核性淋巴腺腫
- (三) 小兒、假性白血病
- (四) 脾臟性貧血
- (五) 慢性再帰熱

第四 白血病 並 假性白血病

原因 真因ハ尙未ク詳ナラス、
 本病ノ主徵ハ血中ノ白血球ノ増加及血液ヲ製スル腺
 器ノ變化ナリ

△症候 其來本病ノ區別シテ(一)脾臟性白血病(二)
 淋巴性白血病(三)骨髓性白血病トシタリ然レ其現
 今ノ學說ニ依ルハ九ニ種ニ區別セラル
 (一) 淋巴性白血病 血中ニ淋巴球増加シ淋巴球増加シ淋
 巴腺及高槻腺、脾臟、腸滑胞子ノ淋巴腺樣腺器侵蝕
 (二) 骨髓性白血病 血中ニ骨髓細胞出現シ且骨髓
 病變ヲロセス

甲 淋巴性白血病

(一) 急性淋巴性白血病

本病比較的多少小兒に來ん
發病多數週向全身倦怠、頭痛、頸部疼痛、
呼吸困難、熱、發汗、前駆症あり

本症の徵候ハ(一) 淋巴器(淋巴腺、脾、及扁桃腺)腫
大(二) 皮膚、粘膜及膿器出血(三) 口腔及咽頭腫脹並潰
瘍等ニシテ(四) 最も必要ナル症候ハ血中ニ於テ白血球ノ増
加アリ、殊ニ淋巴球増加シ、急性症ニ於テハ小淋巴球ヨリ
モ大淋巴球多シ、赤血球減少シテ通常百萬乃至三百萬
ニ減リ凡百萬以下トナルハ稀ナリ、ヘモグロビン全量モ
亦五十%以下トナル、而シテ白血球ト赤血球ト比例ハ通常一ト
十若クハ二十トレバ或ハ一ト三乃至一ト二ニテ達スルコトアリ

經過

ハ二三月以内ニテ其死因ハ出血、敗血症

(二) 慢性淋巴性白血病

(イ) 淋巴性白血病

本症ハ亦其ハ緩慢ナリ、屢々現ル、症候ニテ且初發ハ
ハ淋巴腺腫大ナリ、脾モ又腫大スサレド骨髓性白血
病ノ如ク顯著ナラス

本病ノ緊要ナル症候ハ血液ノ變化ニシテ淋巴球殊ニ
小淋巴球増加ス凡他ハ白血球ハ却テ減少ス、中性嗜好
性多核性白血球ハ全白血球十%以下ニ減ジ時トシテ
ハ二乃至一%トナリ(通常ニテ約七十%)正ホシ
嗜好細胞ハ増シ、肥胖細胞僅少ナリ、髓細胞渾
テ、場合ニ於テ殆ト常ニ缺如ス

赤血球ハ屢ニ常數ヲ保テ或僅ニ減少ス

モシロシノ量モ亦僅ニ減少ス

其他ノ症候ハ皮膚ノ變化(癢痒、荨麻疹、腫起、潮紅、結節形成)肝腫、脾腫、大眼ノ變化(出血、白血病性網膜炎)呼吸困難及出血等ニ

△經過 慢性 死因ハ衰弱

(四)假性白血病

本病ハ淋巴腺及脾腫肥大ヲ呈シ、淋巴性白血病ニ酷似シ、
氏血中ニ唯赤血球減少ノミナラズ白血球増加ス
本病漸次淋巴腺器ノ腫大ヲ呈シ、淋巴腺ハ腫大シ
(殊ニ頸腺)脾モ屢腫大シ白血球増加セリ、皮膚ノ變化ハ
(荨麻疹、皮膚、淋巴性結節)淋巴性白血病ノ如シ

乙 骨髓性白血病

(一)血液

本病血液ノ變化ハ

長来白血球系
白血球對ニ以何數
ニシテ本病ヲ示ス
定セト試ニ何之ハ
其比例ノ五十ノ二
若シニ二十ノ一以内ニ
之ヲ本病ト看做セ
シメ今口ニ於テ白血
球性狀ニヨリテ淋
巴性白血病又或
髓性白血病ニ区
別ス

(イ)多數單核中性嗜好細胞(キルリ氏髓細胞)

(ロ)單核エオジン嗜好細胞現出

(ハ)多核中性嗜好細胞及エオジン嗜好細胞増加

(ニ)肥胖細胞増加

(ホ)有核赤血球ノ現出ヲ示ス

赤血球及ヘモグロビン減少ス

(二)血液製造臟器及其他ノ症候 脾ハ腫大ス

淋巴腺モ亦腫大シ、淋巴性白血病ニ於テハ如ク高度ナリ

骨髄性白血病ニ於テハ鼠蹊腺及腋窩腺腫大ス

其他各腺、扁桃腺、唾液腺、腫大スルアリ
性、胸骨及大、管状骨、疼痛及麻痺ヲ其スルアリ
肝臓モ亦肥大シ、榮養ノ欠クシク侵染、トナル
漸次貧血ヲ呈シ、時ニ吐血、齒齦出血、胃腸出血、
網膜出血、皮膚、漿液膜及胎盤ニ出血スルアリ
其他弛張性、熱發、呼吸困難、氣管支炎、吞見、消化
障碍、皮膚ノ變化、視力及聽力障碍ヲ其スルアリ

△經過 慢性

△解剖 血液、性ニ膿汁或ハシヨコラテ様ヲ呈スル
アリ、白血球ハ甚シク増加ス、淋巴腺ハ腫大シテラ
切割スルニ、膿様白色若クハ灰白色ヲ呈ス、而テ其
細胞ニ富テ、結締織ニ富トシテ、或ハ柔軟或ハ硬固シ

脾ハ著ク増大シ、三乃至五、甚ニ上ニ達スルアリ、(且チ諸
組織成ルニ増殖スルニ見) 骨髓ハ變化シテ、一淋巴
様骨髓(又赤色骨髓)及膿様骨髓ヲ呈ス(ノイニ
氏ノ區別) 甲、乙、丙、丁、骨、軟、膠、様、紅、色、ヲ、呈、シ、覆
蓋子セシ、如クテ淋巴球ニ富シ、乙、丙、丁、アリテ、灰白膠
様ニシテ、原形質ニ富シ、骨、軟、或ハ多核、細胞ヲ含有ス
骨質ハ多ク、菲薄、鬆、疎、トナリ、肝臓ハ多ク、増大
シ、其重量十其元ニ達スルアリ

△診断 白血病ニ、血液ノ變化、淋巴腺腫大、淋

巴腺様新生物、脾ノ増大、骨痛、出血性、毒質、貧
血、熱、其、皮膚ノ變化、等アリ

△豫後 不良

白血病及血色紫赤

血色素血ノ血色素尿

△療法 消化し易キ炭素食ヲ與ヘ新腎心空氣

中ニ行ハセシム

葉劑トシテ鐵劑、亞砒酸、燐、キチ不、沃、及水銀ヲ用フ

近時孤獨瘰癧ヲ減ル者アリ 臍、肝、脾、或骨

髓ノ分解タルモノ又ハ鏡前ヲ告下或ハ皮下ニ注ス

維ノ甲狀腺ヲ減ルモノアリ

第五 血色素血及血色素尿

△原因 本病ハ血中ニ於ケル赤血球ノ崩壞ニ由リテ生ズルモ

ニシテ其原因ハ種々ナリ (一) 中毒 (リウマチ、酸加里、左ニ

ルヒドラーチ、アシチアズプリン、左ニセキ、硫化炭素、硫酸、塩

酸、リウマチ、キチ不) (二) 傳染病 (猩紅熱、腸窒扶

斯、麻拉利亞、徵毒) (三) 火傷 (四) 異種動物血ノ血
管内注入 (五) 初生児ノウヂンケル氏病 (六) 發作性血色

素尿

△症候 赤血球ハ變形シ有核赤血球ニ巨大有核

赤血球、核ノ分裂セル赤血球、多色染色者、變性ヲ

呈スル赤血球ヲ見ル、多核白血球ハ多少増加ス

血液ナルカリ、度減少シ、其凝固力増加ス、血色

素ハ尿中ニ顯ル、コレステロール、胆汁中ニモ現ハル、

アアリ、其重症ニ於テハ葉瘰ヲ生ズルアリ

△豫后及療法、原因ニヨリテ甚異アリ

發作性血色素尿 或ハ

間歇性血色素尿

本病ノ發化ハ惡寒ヲ以テ發極ト曰ク度或ハ其
以上ニ達スル發化中ニ淋泄ヤルル尿ハ血色或ハ暗赤
褐色ニシテ血色素ハ反應ヲ呈スル血球ヲ認メ
尿中ニハ常ニ蛋白質ヲ含有シ又屢ニ胆汁色素
ヲ含有ス發化ノ遠ザカルニ從ヒテ尿ハ漸次稀薄ト
ナル皮膚及肺腹ニ輕微ノ黃疸ヲ呈スルアリ從
テ草在疹様發疹或ハ限局性浮腫ヲ呈スルアリ
脾臟及肝臟ニ從テ腫大シ心臓ニ於テハ多量ノ血性雜
音ヲ聽ク血液ハ凝固シ易ク赤血球ハ甚ク減少
シ白血球ハ多少増カス
發作ノ持續ハ半時間乃至數時間ナリ
本病ハ寒冷ノ候ニ發スルモノニテ夏期ハ發作ヲ

免ル冬期ニ於テモ襦中ニアリテ皮膚ハ寒冷ヲ避ク
トキハ之ヲ免ルコトアリ或ハ步行ニ由リテ本病ヲ惹
スルコトアリ寒冷ヲ惹クハ步行ノ何故ニ本病ヲ惹
スルコト云フコトハ未ク明カニ解セザレトモ血球ノ濃
解ハ血管内ニ於テ行ハルガ如シ
經過 ハ慢性シ
療法 患者ハ寒冷ヲ避ケ步行ヲ廢スベシ
星象ニ徴毒又ハ麻拉里症ニ似テ行ハル者ハ其症
法ヲ行フベシ

第六 ウェルホッフ氏血斑病

原因 本病ハ其輕重並ニ侵サレ、腸管、胃、脾、肝ニテ
便利上之ヲ尤ノ三種ニ區別ス
ウエルホッフ氏血斑病

皮膚病

- (一) 單純性紫斑病 單ニ皮膚ニ出血ヲ来スモ
- (二) 俚麻質斯性紫斑病 皮膚ニ出血ニ關テ疾患ヲ伴フ

(三) ウエルホーフ氏血斑病 皮膚、粘膜及内臓ニ出血ニ本病ニ獨リ疾患ノ觀ヲ呈シ其原因ハ細菌ナルカ、中毒ニカ高キ以テ之ニ衰弱家、血ノ血球ハ本病ニ罹リ又衰弱性疾患ニ本病ヲ誘發スルコトアリ傳染病ノ經過中ニ本病ヲ誘發シ又中毒ニ由リテ之ヲ發スルコトアリ

症候

甲 單純性紫斑病

本病ハ輕症ニシテ唯皮膚ニ出血ヲ起スルコトニ其血斑圓形帽針頭大ニシテ初メ下肢ニ起スルニ漸次

軀幹及上肢ヲ侵ス出血斑ニテ指壓ヲ加フモ褪色ス、而シテ血斑ハ漸次變色スルヲ以テ初メハ鮮紅ナシト成リ漸次褐赤、綠、黃ニ變ス、時トシテハ不正形ノ皮膚出血ヲ起スルアリ

經過 俚良ニシテ約一週ヨリ至三週尙チ

乙 俚麻質斯性血斑病

微熱、食慾不進、倦怠子ノ前、軀體ヲ起シ、次ニ是關節及膝關節等ニ疼痛ヲ起ス、而シテ之ニ同時或ハ之ヲ連シテ皮膚ニ出血ヲ起ス、後ニ熱及鼻腫大アリ

經過 良好ニシテ數週ニ至ルコトアリ

丙 ウエルホーフ氏紫斑病

後ニ食思欲之、倦怠、嘔吐、胃部圧重、微熱子ノ前

脚底ヲ萎スルアリ

即若危状ハ皮膚ノ出血ニテ皮膚ニ帽針頭大或ハ豌豆大ノ血斑ヲ見シ稀ニハ不正ノ大ナル血斑ヲ生ズ此腫ニ出血アリ量多キハ血吐又ハ齒齦出血アリ其他吐血、下血、咯血、血尿ヲ生ジ出血ヲ来シ結膜、網膜、眼瞼子ニ出血アリ又不正ノ極度ノ貧血、脾腫子ヲ見スルアリ

経過 或ハ急性或ハ慢性ナリ

豫後 多クハ更ニ厄有篤ノ出血ヲ来スルアリ

療法 平臥安静ヲ令シ消化し易キ流食合ヲ

等ノ咖啡、茶、煎茶、如キ軟性物ヲ禁ズルコト

宜ムルホトハ氏ハ硫酸ヲ福由シタリキ

○鑑別疾患
一水銀中毒

第七 壞血病 (尖苟兒倍苦)

定義 本病ハ栄養不及ニ原因シテ地方病性或ハ流行性ノ全身病ニシテ其主徴ハ出血及炎症就中齒齦ハ出血性ヲ示ス

原因 栄養ノ障礙アリ (サレド本病ヲ以テ傳染病ト

ナラモナリ) 往時ノ航海ハ長時ヲ要シ新鮮ナル飲料水、肉類等ニ野菜、缺乏ヲ来シ屢々本病ヲ生ズシヨリモ (海上壞血病) 現今ニ於テハ航海日短縮シ且新鮮ノ食料ヲ貯積スルヲ得テ故ナリ於テ本病其跡ヲ絶ツコトナリ

本病ハ一連ニ戰時ノ甚ク (戰時壞血病) 殊ニ包圍戦ニ於テ此病ニ於テハ不衛生的ニシテ殊ニ新鮮ナル肉類等

ノ不足ナリ

合不缺乏之ヲ以テ本病ヲ表ス、其他組織、凶作ニ
本病ヲ表スルヲ又食物ノ宜調、以テ養ハズ、或ハ
配食不食、為ニ兵室、監獄等、於テ養ハズ、アリ
飲食物、他、通氣不、濕潤、使、其、氣、血、滯、人、氣、血
(寒冷、濕潤、于、世) 身体、過勞、憔悴、于、世、苦慮、于
モ亦、誤、因、ト、ス

△症候 本病、徐々、表、生、ス、モ、シ、テ、通、年、久、ク、リ、多
ク、二、週、間、以、上、前、駆、症、候、アリ、鼻、血、ヲ、シ、テ、皮、膚、及、肌
腹、蒼、白、ト、リ、眼、球、陷、没、シ、眼、睛、ノ、周、圍、ハ、暗、色、ヲ、輪、ヲ
生、四肢、及、關節、等、ニ、痺、在、斯、斯、性、疼、痛、アリ、患者
冷、感、僕、怠、枯、中、怒、憂、嗜、欲、アリ、運動、由、之、衰
汗、呼吸、困難、及、心悸、亢進、ヲ、表、ス、多、ク、ハ、食、慾、缺、如

齒齦炎

之、氏、稀、ハ、善、能、症、ヲ、示、或、ハ、酸、性、ノ、物、ヲ、嗜、ム、

固、有、之、ハ、壞、血、病、性、齒、齦、炎、ニ、シ、テ、上、述、齦、齦、紅、シ、舌
色、ヲ、常、ニ、腫、脹、シ、其、組織、鬆、軟、ト、リ、突、突、易、シ、出、血
不、此、變、化、ハ、多、ク、ハ、前、齒、ノ、前、面、ニ、表、シ、或、ハ、兩、齒、間、隙、ニ
挺、出、老、部、ニ、現、シ、遂、ニ、下、方、ニ、侵、襲、シ、テ、下、齒、牙、ノ
基、底、ニ、及、ブ、上、齒、齦、ニ、出、血、性、浸、潤、ヲ、表、シ、上、齒、牙、ハ
齒、槽、内、ニ、於、テ、弛、緩、シ、遂、ニ、脱、落、ス、ル、ヲ、アリ、(カ、シ、ド、令、リ
上、齒、牙、ノ、缺、ケ、ル、部、ニ、於、テ、ハ、少、シ、モ、老、症、ヲ、起、サ、ン、ス、ノ
上、述、以、テ、上、齒、牙、ナ、キ、兒、童、ハ、殆、ド、常、ニ、壞、血、病
性、齒、齦、炎、缺、如、ス、患者、若、齒、齦、炎、ヲ、方、ニ、眩、シ、疼、痛
アリ、殊、ニ、食、時、ニ、増、劇、ス、屢、ニ、甚、シ、キ、口、臭、アリ、唾、液、ハ、必
旺、盛、ス、又、皮、膚、下、結、締、緻、筋、肉、子、ニ、出、血、アリ

往々不正ノ熱、及び脾臓ノ腫大スルヲアリ血液ニハ
大ニ変化ナキモ赤血球及ヘモグロビンを減サス

△経過 多クハ慢性

△診断 原因ノ存在、遠隔ノ変化並ニ皮膚ヨリ出

ルニ因リ困難ナキ

△豫後 適宜ノ療法ヲ施ストズトニ凶ス

△療法 豫防法ハ緊要ニテ航海探險旅行及

範成ニ善良ノ飲水、新鮮ナル野菜、果実及
肉類ヲ用ニ意スルヲ要ス

既ニ本病ヲ患シタル中、衛生、食餌的療法ヲ行

フ禁劑トシテ、植物酸、加里塩類(即チ枸橼酸カ

リウム、醋酸カリウム、重石炭酸カリウム、重碳酸カリウム

硝酸カリウム)並ニ麥酒、醱母ヲ禁フ

歯銀をニ對シテハ硝酸銀杆ヲ以テ腐蝕シ又これヲ

下幾ラタニアテ幾ラ多クシク口内酸カリウム(二、五%)

醋酸禁上(一%)並ニ過アセチル酸カリウム(〇、三%)

ヲ以テ全ク戒セシム

第八 血友病

△原因 自然或ハ僅微ノ感傷ニ由リテ出血シテ其

出血ノ原因ニシテ、歇止セズ屢ニ之血ヲ為ニ死スルニ至

ル遠傳病也

ヘッセン氏ノ例ハ血友病ハ父ヨリ其女ヲ介シテ男孫

ニ傳ハリ母ヨリ其女ヲ介シテ孫ニ傳ヒタル父ヨリ直

接ニ其男子ニ遠傳スルヲハ稀シ

ハ血友病

△症候 本病は病候ニ強弱アリテ輕症即チ未熟
症ハ出血ヲ来スル習慣ヲ有スルニ止マルニ重症ハ出血
シテ危險ナリ

多數ノ血友家ハ幼時ニ於テ既ニ本病ヲ發シ十歳
以下ニ死亡シテ稀ニハ高齡ニ達スルコトアリ初生兒
ニ於テハ本病ノ胎中出血トナリテ現ルコトアリ

本病ノ出血ノ外因ニヨリテ出血ヲ来ス例之ハ針刺
指頭ノ小切創、齒牙ノ抜去ニ由リテ出血止マズ或ハ
或鼻中チカミル際ニ吐血ヲ来シ、齒ヲ落ルル際ニ
齒齦出血ヲ起スカカシ、或ハ外因ナラシメテ自然ニ出
血スルコトアリ、就中氣ニ多キハ吐血次ニハ齒齦及腸
出血次ニハ肺腎及胃出血ナリ、其他閉塞、子宮

及結膜ノ出血アリ、

本病ハ出血シ易キコトナク、出血ヲ始メハ止血ニ難ク
或ハ全ク止血セズ、是本病ノ危險ナル点ニシテ皮膚外
傷、拔齒、小手術ノ為ニ大出血ヲ来シ、致死ノ原因
トナレリ

△豫后 不良ニシテ本患者ノ六十%ハ八歳以下ニ死亡シ
唯十%ノミ二十歳ニ達ス、春城若動期ヲ過ルニハ危
險ハ漸次減サス

△療法 豫防法 本病ヲ根絶セシムルニ婚姻衛生
ニ依ルベシ、即チ血友病系統ノ女子ニ結婚セシムル男子
ハ健康ナル婦人ト結婚セシムベシ
出血家ノ職事ヲ授ルル外傷ヲ防ギ、食物ハ消化

易キ、後者、物ヲ授ル酒類、咖啡、若クハ茶ノ如キ、
 我性ノモノヲ避ケルコト
 既ニ出血ヲ及シタルハ、外科的療法ヲ行フべし
 本病ノ特效薬ナシ、葉素トシテ、麥角、砒
 酸、銀、硫酸、トリウム、硫酸マグネシウム、
 白土、石灰、
 分ハチ、増化アドレナリンヲ用フ

○第二章 脾臟疾患

第一 脾腫

原因

(甲) 急性脾腫

之トシテ (一) 傳染病例之諸

種、室狄斯、麻疹、猩紅熱、其他 (二) 外傷 (三) 栓塞

及 (四) 急性鬱血ニ由リテ生ズルコトアリ

(乙) 慢性脾腫

(一) 慢性傳染病 (慢性麻疹、

梅毒、結核) (二) 血液病及全身病 (三) 門脈鬱血ニ由

ル疾患、其他 (四) 激刺、慢性循環器及呼吸器疾患等

ニ由リテ生ズ

症候及診断

本病ノ診断ハ其固有症候ニ由ル

本病ト誤ルルキ患ル疾患ハ胃癌 (四月底ノ腫瘍) 及

肝臟 (丸葉ノ左方ニ増大シタルコトナリ)

脾腫

- 脾ノ固有症候
- (一) 脾腫ノ左方ノ肋部
ヨリ右腸骨柄ニ
向ヒテ増大ス
- (二) 脾ノ上縁ハ解知
スルコトヲ得ス
- (三) 脾ハ呼吸運動
ヲ受テ其方向ハ上
方ヨリ斜ニ左下方ニ
向フ
- (四) 脾ノ尖端ハ卵形
ニ類ス
- (五) 脾ニ截痕アリ
- (六) 脾ノ淺表在性
ニ解知ス

△療法 原因病、治療スベキモノ、原因的療法ヲ行フ
ベシ、其他局所ノ療法ヲ行ヒ又時トシテ、脾臟摘
出術ヲ試ムルアリ

定義

○第三章 新陳代謝疾患

第一 糖尿病

糖尿病ハ糖分ノ多量ニ尿中ヨリ排泄セラル、慢性新
陳代謝病ヲ云フ

△原因 人若シ多量ノ糖ヲ摂取スルハ、其後數時間
内ニ排泄スル尿中ニ多量ノ糖ヲ含ミ容易ニ之ヲ檢出
スルヲ得ベシ之ヲ食餌性糖尿ト云フ

妊婦及產婦ノ一時糖ヲ排泄スルコトアリ、是乳汁鬱滯
シ乳糖ノ血液中ニ吸收セラル腎ヨリ排泄スルニ由ル此尿
ハ乳糖尿ナリ

ゴード、ベルナル氏、動物ノ糸四、腺を、感、發、提、ス
ル、其、尿、中、ニ、糖、分、ヲ、現、見、ス、コトヲ、實、驗、シ、キ、(糖、刺、)

○糖尿病

又惡質的及官能的神經疾患例之ニ頭蓋骨傷
 腦震盪、腦出血、腦脊髓腔、癲癇、癲癇、心等ニモ糖
 尿病ヲ發スルコトアリ、其他精神感動、精神不安、
 悲哀、憂慮、激昂等ノ本底ヲ誘發スルコトアリ
 諸種ノ傳染病例之ハコレヲ、室狹斯、猩紅熱、流行
 性感、質、扶的、マ、リ、ア、徵毒等ニ發スルコトアリ
 諸種ノ中毒例之ハ、ク、ラ、シ、酸、化、素、素、画、確、酸、ア、イ、ト、心、
 ス、ト、リ、ヒ、シ、ン、モ、ル、ヒ、ネ、等、ニ、由、リ、テ、發、ス、ル、コ、ト、アリ
 フ、オ、ン、メ、ー、リ、リ、グ、氏、依、ル、ニ、林、檜、梨、李、等、ノ、根、皮、中、ニ
 含有セル、ソ、ロ、ロ、リ、ゲ、ン、ハ、人、体、及、動、物、ニ、對、シ、テ、前、記、藥
 劑、如、ク、人、之、身、ノ、調、和、ヲ、障、碍、ス、ル、コ、ト、ナ、ル、コ、ト、ハ、高、度、糖
 尿、ヲ、發、セ、シ、ム、而、テ、此、場、合、ニ、血、液、中、ニ、糖、量、減、少、ス、是

其、原因、腎、臟、ニ、變、化、ヲ、リ、テ、血、中、ニ、糖、量、減、少、ス、腎、
 通、過、ヲ、遮、ラ、サ、ル、ニ、由、ル、モ、ト、ナ、ル、

從、來、糖、尿、病、ノ、屍、体、ニ、於、テ、往、ニ、脾、臟、ノ、變、化、ヲ
 認、メ、兩、者、向、ク、同、存、ス、ル、コ、ト、人、ノ、想、像、ス、ル、ト、モ、ト、ナ、
 リ、モ、ガ、フ、オ、ン、メ、ー、リ、リ、グ、及、シ、ン、コ、ー、ス、キ、ト、由、氏、ノ、實、驗、
 的、ニ、之、ヲ、証、明、シ、タ、ル、西、氏、ノ、發、見、ニ、由、ル、ニ、大、ノ、脾、臟、全、部、
 ヲ、摘、出、ス、ル、ニ、劇、シ、キ、糖、尿、病、ヲ、發、生、ス、ト、ナ、ル、

其、他、本、病、又、肝、臟、病、(肝、硬、變)、腸、胃、病、等、ニ、發、ス、
 ル、コ、ト、ア、リ、ト、ナ、ル、

又、肥、胖、病、及、痛、風、ヲ、患、ス、ル、者、往、ニ、本、病、ヲ、發、ス、ル、コ、ト、アリ

解剖 上、ノ、所、見、ハ、全、ク、陰、性、ニ、シ、テ、屢、ニ、脾、臟、ノ、
 變、化、(萎、縮、脂、化、腫、瘍、等)ヲ、認、ム、腎、ニ、モ、變、化、ヲ

見たり。肝は従って増大シテグリブリンを分泌シ、
従つて肺及脳ニ變化ヲ与ヘルコトアリ

症候

若し緊要ナル症候ハ尿中ニ糖ハ排泄セリコトアリ

尿量増加シ三千、五千、一萬立方仙送、若し尚其比
上ニ達スルコトアリ尿色ハ清澄ニシテ鮮黄色(酒色)

味ハ甘クシテ果実様ハ臭氣ヲ放ツコト稀ナク

尿反應ハ酸性ナリ尿比重ハ増加シテ一〇・三〇乃至
一〇・六〇以上ニ達スルコトアリ

尿量ノ多キニ拘ラズ其比重々々モ本病疑ハ存スルコト
アリ其尿ハ泡沫ヲ生ジ易ク其泡沫久シク消失セズ稀ニ

ハ尿量増加セズ且其比重甚低クシテ然モ尿中ニ糖
ヲ含有スルコトアリ

尿中ニ糖ハ百分ノ幾ク種々トシテ多クハ二乃至四%ナリ

尿中糖ハ証明法

トロンメル氏試験法

試薬

(一) 一〇%トロンメル液(カリ海液)

(二) 二・五%硫酸銅溶液

尿約五立方仙送ヲ法驗管ニ採ル、其容積約三分ノ一
トシ海液ヲ加ヘ、更ニ注意シテ硫酸銅溶液ヲ滴下
スル、此場合ニ沈澱ヲ生ジ、振盪スルニ溶解セズシテ絮
状ヲナスハ糖ヲ含マシク微チ而シテ沈澱ノ振盪ニヨリテ
溶解シテ美而酸亮海液色ヲ白クシ、其溶解スルマ
テ硫酸銅ヲ加ヘ而シテ液ハ二層ヲ成スルコトハ沸騰

与ニミエザル者ニ既ニ重酸化銅ノ赤色沈澱若クハ重
水化銅ノ黄色沈澱ヲ生ズ

(二) ベットゲル氏試験法

尿中ニ少量ノ苛性ナトリウム液(或ハ同量ノ炭
酸ナトリウム濃液)及一刀尖ノ次硝酸汞ヲ加
ヘ、二三分ノ間を沸ス、糖存在ニキハ黒色ハ重

酸化汞銀又ハ金屬汞銀ヲ析出ス
(三) テーラー氏試験法

試薬

- 一、硝酸ナトリウムカカリウム 四、〇〇グラム
- 一、〇% ナトリウム溶液 一〇〇、〇〇ニ溶解シ
- 二、〇 次硝酸汞銀 二、〇〇グラム加ヘ

其混和液ヲ標本五テラニ過シ、冷却後濾過ス

尿一〇立方仙迷ヲ採リ、一立方仙迷ノ試験薬ヲ加

ヘ、二三分ノ間を沸ス、糖存在ニキハ褐色若クハ暗色トナシ

(四) フレイワシユン、ヤウシユ氏「フェーレンヒドラー」ニ試験

尿二十立方仙迷ニ五立方仙迷ニ塩酸ヲ加テ、ヒトグラム

〇、五重ニ醋酸ナトリウム一〇グラム加ヘテ溶解セシメ、

其濾液ヲ試験管ニ移シ、三十分乃至一時間重湯

煎コトシ、若シ糖存在ニキハ「フェーレンヒドラー」ニ試験

法晶ヲ析出ス

○尿中ニ少量ノ蛋白質ニシテ、シラウ食中ノ糖類查ラズニテ

テ、其リ糖ヲ析出スルコト

○糖類ノ定量法 或ハ極的検査法ヲ

且ツ脱カス

以上症候他本症候並ニ合併症ハ尤々如

一消化器症候 口内乾燥ス 舌亦乾燥シテ皸裂

ヲ生シ或ハ潮紅シ或ハ苔ヲ生ス 齒齦ハ屢ニ弛緩シ 齒

牙脱落シ若ハ齦齒ヲ萎ス、唾液ノ反應屢酸性

ヲ現ス

特殊ノ胃疾患ナキモ本患者ハ貧血食ヲシテ慢性胃

加害也 胃下垂若ハ胃擴張ヲ萎スルコトアリ 便ハ多シ

ハ秘結ス 肝ハ時シテ腫脹スルコトアリ

(二)呼吸器疾患 重症患者ハ往々其呼吸ニ呆突

様ノ臭氣ヲ帯フ(アモトシ臭)本病ノ経過中ニ肺結

核ヲ萎スルコトアリ

(三)血行器症候 心臓ニ多クハ障碍ナシ但シ動脈硬

化ヲ見ル又時シテハ狭心症或ハ心臓性喘息ヲ萎スル

コトアリ

(四)泌尿及生殖器症候 往々慢性腎炎ヲ萎スル

コトアリ又尿刺戟ニ由リテ屢膀胱炎、尿道炎、電

頭炎、陰部、癢痒、濕疹等ヲ萎スルコトアリ

疾患初期ハ淫慾亢進スルコトアリ此漸次減退シ

テ遂ニ陰萎ニ陥ル

(五)皮膚症候 皮膚ハ多クハ枯燥ス、往々類ハシ

キ皮膚癢痒アリ 屢ニ皮膚ニ癩腫ヲ萎シ又皮下ニ

化膿竈ヲ見ルコトアリ

本病ノ末期ハ例之腎衰ヲ萎セザレバ浮腫ヲ来スコトアリ

(六) 眼ノ症候 緊要ナル症候ハ白内障ナリ

其他調子機ノ障碍ノ網膜炎、視神經消削ヲ表シ又弱視及星内障ヲ表スルナリ

(七) 神経系症候 頭痛、身体倦怠、枯水、愛調ヲ表スルナリ 又坐骨神経痛、后頭神経痛、手足

神経痛、偏頭痛ヲ表スルナリ 神経痛ヲ表スル知覚麻痺或ハ運動麻痺ヲ表スルナリ 膝蓋腱

反射ノ屢減退若クハ消失ス

○ 糖尿病殊ニ其重症ノモト於テハ重キ特殊ノ症状ヲ起シテ突然死ヲ招クナリ 是クスマル氏ノ始メテ糖尿病性昏睡ト云ケルモノシテ往々誘因ナキモ呼吸器及消化器ノ障碍ヲ起シタルニ表シ或ハ純肉

食ノ履行ニ依リテ表スルナリ 其症状或ハ突然或

頭痛、不眠、不安、恐怖、眩暈等ハ神経亢進ノ症候ヲ表シタルニ嗜飲ヲ表シ次ニ昏睡ニ陥リ、

瞳孔散大シ、眼瞼半閉シ、眼球ハ諸方向ニ緩徐

運動ヲ示シ脈ハ小シテ早シ、体温ハ初メハ上昇ス

シモ後ニ常溫以下ニ降り、特異ノ呼吸困難アリ呼吸

吸ハ深長ニシテ騒鳴ヲ伴フ(大呼吸)皮膚ニチアノ

トセアリ呼吸氣ニアラフニシテ臭ヲ帯ブルニアラフニ

アラフニ醋酸ヘトク、オキシシテ醋酸ヲ含有ス

一二日間此状態持續シ、心カ衰弱、体温下降、呼吸

吸淺小トナリテ死ス

○ 糖尿病長時ハ有害ナル病的新陳代謝產物

患者ノ肥伴家、
神道家或ハ勤
脈硬多シ遠凡
老人ナル其診
断困難ナリ

ノ為ニ其トモニ中毒ニ外ナク、スルマシ、
ニキリ氏等ハ酸中毒(ベータ、オキシ牛酪酸)及之ニ
由リ起ルニシテ、アルカリ缺乏ヲ以テ其原因ナリト
シテ、
△経過 種々ニシテ、頗ル急速ニナリ、或ハ數年
以上ニ亙リ、其轉帰ハ死ニシテ、死因ハ瀰漫性
糖尿病昏睡、肝結核、癱疽及腎炎等ナリ
△診断 尿中糖、証明ニ負、良煩渴、多尿、中糖分
増加、蛋白質分解、瀰漫性脱力、尿中ニアミノ、ア
ツエト醋酸ベータ、オキシ牛酪酸、アミノ、尿素ノ排泄
一般ノ疲倦及筋肉衰弱、癱腫、陰門、瘙癢、龜頭
炎、陰莖、白濁、坐骨神經痛、膝蓋腱反射消
失、糖尿病性昏睡、肺結核等ノ症候ニ據ル

慢性脱症ヲ患ルモノニシテ、良餌ハ平素異ナリ、拘
之、瀰漫性ヲ發シ、而シテ他ニ原因ヲ認め、凡ハ念ノ為ニ
檢糖スベシ

檢尿ヲ行ヒテ、其成績疑シキハ、患者ノ空腹時ニ約
百瓦ノ麵包ヲ試験的朝食トシテ、其二三時間ヲ
経テ檢糖スベシ

△療法

本病ノ慢性ナリ、是モ必キ、**食餌療法**

(一) **最嚴行食餌法** 今ハ水炭素ヲ禁ジ、脂肪

他、一日約百二十瓦、蛋白質ヲ許ス、此法ハ僅ニ數日

間行ヒ得ルニシテ、(ヤス)

(二) **嚴行食餌法**

牛肉七百瓦ヲ食リ、若クハ、若ク

ルモノ(肉ノ代リニ魚、肉又ハ鶏卵ヲ用ルモノ可ナリ)脂肪

百乃至二百瓦並ニ適当ヲ野草ヲ其フ

(三) 輕度ノ食餌法 嚴行食餌法ノ如ク蛋白質脂肪及野菜ヲ其フル他、少量ノ含水炭素ヲ用フル
フシ許ス

糖尿病患者ヲ治療セトスルニ當リテ先ツ尿ノゲルハルト氏反應ヲロセザンフヲ確メタル后其輕症トヤ否ヤヲ檢スベシ

重症ノ者ニ嚴行食餌法ヲ行フハ糖尿病性昏睡ヲ及スル危險アルヲ以テ全然含水炭素ヲ禁ズルヲ許ス

輕度ノ者ニ嚴行食餌法ヲ行ヒ漸次ニ少量ノ含水炭素ヲ其フ其含水炭素ノ量ハ檢尿シテ適

宜ニ増減スル本病ノ療法目的ハ唯尿中ノ糖分ヲ減却スルヲ以テ是レトセス必患者ノ一般

状態(体重等)ニモ注意セザルベカラズ

本病ニ百二十瓦ノ蛋白質(鮮肉六百乃至七百瓦)

ヲ肉、魚、鶏卵等ニ依リテ用ヒ(120x4=480x2=960)

ニ含水炭素ノ代リニ百乃至二百瓦ノ脂肪ヲ牛乳

脂肪、天麩羅等ニ依リテ用フ(100x9=900)

ニ13x200x9=2340(1860x4=7440) 野菜ハ微量ノ含水

炭素(二乃至四%)ヲ有スルニテ用ヒテ用ヒテ用ヒ

酒類ハ節約劑トシテ用ヒラズ、即チ酒類ハ可燃物質ナラズ(其一瓦ハ七カロリーヲ其メ) 身体ニ蛋白質及脂

肪ヲ節約シ且嚴行食餌法ヲ行フ際殊ニ多
量ノ脂肪ヲ與フルハ其取ラ容
易ナラシムルニテ又神經葉及心臟亢奮劑ト

ナリ

金水炭素中ニ是レ不食ルハ葡萄糖、マルト
セ、澱粉及蔗糖ナリ、甘味劑トシテサカリン、
ラクト、乳糖ハ甚ク有美ナク故ニ中量ノ牛乳
ヲ與フルモ可ナリ

金水炭素中ニテモ麵麩及餃ハ常用ノ食料ナリ
ラクト金ノ之ヲ禁ズルノ難シ

飲料トシテハ普通ノ水並ニ鑛泉水ヲ欲スルマニ共
ベシ又茶、咖啡、サカリヲ用フ

本病ニ於テ使用ヲ許スルキ食物ハ諸種ノ肉(牛、羊、
豚、野獸、鳥類)並ニ内臓肉ノ製品(塩藏肉、臘
腸、燻肉等)魚肉(牛肉、羊肉、鰻肉、醋漬等)並
ニ其製品(乾物、塩漬、罐詰等)牡蠣、貝類、蝦
蟹、章魚、烏賊等 其他鵝卵、天鰵、羅、豆腐
豆、腐糟、凍豆腐、油場豆腐、豆腐皮、麩、牛酪、
味噌、香物、大豆、小豆、落花生、及諸種ノ脂肪ヲ
ナリ

筋肉ノ傷作ハ糖ノ排泄ヲ減セムセド其運動ヲ行
ハシムルニ患者ノ体力状態ヲ顧ミカニカクテ衰弱
ニシテ患者ハ運動口ニ代リニ按摩ヲ行フニ
皮膚ノ擦生モ亦必要ニシテ屢々入浴セシムル或ハ冷

水腫、強ク行フ

本患者ハ稀ニ下痢スルコトモ多クハ便秘スルモノ
ナルヲ以テ常ニ便通ニ注意スベシ

牛病ニ特效薬ナシ諸薬中ニ其好ノ心
田ラ視スモノ、**阿片**ニシテ制渴ノ效アルコトナク、
糖量及尿量ヲ減ジバレテアリ、

其他、**エタイン**、**モルヒネ**、**プロトムカリウム**、**フェナ**
セチン、**アンチピリン**、**アンチフェリン**、**エキサレキ**、**ズル**
ヂナール、**スリリン**、**瀨州**、**莖莖**等ヲ用フ

砒石、**石炭酸**、**サリチン**、**酸**、**ベンゾボリン**、**サロリン**
グアヤコリン、**クレオソルト**、**ヨロド下炭**、**ヨロド塩**、**例**
ハヨロド、**オム**、**酸**、**毒**、**吸**、**入**、**乳**、**酸**、**ストリキ**、**チネ**、**ネ**、**オ**

酒、**釀**、**母**、**キ**、**下**、**不**、**鐵**、**シ**、**チ**、**キ**、**ウ**、**ム**、**ヤ**、**ム**、**フ**、**ラ**、**ス**、**ム**、**膠**、**朮**
製、**前**、**子**、**シ**、**亦**、**用**、**ヒ**、**ト**、**シ**

要スルニ本病ニ對シテ、斯ノ如ク多クハ、**葉**、**前**、**ア**、**シ**、**凡**
其效驗アリト稱セラルハ、**ア**、**シ**、**凡**、**之**、**依**、**リ**、**テ**、**食**、**意**、**ヲ**
損シテ食物摂取ノ量ヲ減ジタルニ外ナク

糖、**尿**、**病**、**昏**、**睡**、**ニ**、**大**、**量**、**重**、**炭**、**酸**、**曹**、**達**、**ヲ**、**内**、**服**
セシメ、或ハ多量ハ、**重**、**曹**、**液**、**(重**、**炭**、**酸**、**曹**、**達**、**五**、**〇**、**〇**
ヲリ、**リ**、**テ**、**ル**、**水**、**ニ**、**溶**、**解**、**シ**、**タ**、**ル**、**モ**、**ノ**、**ヲ**、**靜**、**脈**、**内**、**ニ**、**注**、**射**、**シ**
虚、**脱**、**ノ**、**恐**、**ル**、**牛**、**ノ**、**樟**、**腦**、**等**、**ハ**、**元**、**大**、**毒**、**初**、**ラ**、**與**、**フ**

第二 尿管症

△原因 本病ノ本質ハ尚ホ不明カラス、
本病、**視**、**系**、**ノ**、**疾**、**患**、**而**、**頭**、**蓋**、**外**、**傷**、**腦**、**震**、**盪**
尿管症

延髄小脳疾患慢性脊髓病及官能的神経
病ニ来ル又傳染病中毒ニ由リテ本病ヲ及マ
ルアリ

症候 一。微少量増加ニシテ一日ノ尿量三リトシ
五リトセルナリトセル若シ、其次上ニ及ブ尿色ハ蒼白
清澄ニシテ其比重一。〇以下ニ降り屢一。〇ハ
乃至一。〇五トナリ或ハ尙其以下ニ減スルアリ糖及
蛋白質ヲ含マズ

多尿力ニ甚シキ煩渴アリ口腔及咽頭腔ニ著シ
キ乾燥ト粘著トラ覺エ皮膚ハ乾燥ス
食慾ハ時々亢進シ便通ハ多クハ秘結ス殊ニ奇
タル涎唾液分泌増加スルアリ

経過 慢性

豫后 不良

診断 本病ハ多尿症煩渴及皮膚乾燥ノ
症候ニ依リテ診断シ得ズ

療法 原因ノ明カナル場合ニ原因療法ヲ行フ
例之ハ微毒ニ驅逐療法ヲ行フベシ對症の療
法トシテハブドウ糖注射、阿片、醋酸鉛、麥
角、アセチル、砒石ヲ用フ

第三 肥胖病(脂肪過多症)

原因 体素ノ劣作、脂肪含量ハ約体重ノ十五%
リ此ニ及ラズ起スル者ヲ肥満ト云ヒ更ニ其度ノ深キ者ヲ
肥胖病ト稱ス

肥満病

肥肝病

肥肝病、最も必要なる原因、消費される食物類の概
略を、食物の多量下ナリ、アムニオン飲料類の多用
に若し、肥満する人、知んば、口には、是れアルシユル、消化し
易キラ、以テ体内、脂肪、燃焼ラ、好ケ加之、麥酒、ルキ
ハ、カカザシ、金水炭を、ラ、含有スルニ、由ル
安座、逸、疾、子、体、物、質、消、費、ラ、減、少、シ、ラ、以、テ、本、病
ヲ、甚、ス、眼、病、関、心、病、外、傷、等、ニ、由、リ、テ、久、シ、ク、安
静、ヲ、守、ル、ル、ハ、カ、ク、可、場、合、ニ、肥、満、シ、食、肉、及、セ、キ
黄、病、ニ、於、テ、モ、亦、脂、肪、ノ、沈、着、ヲ、見、ル
糖、尿、病、ト、肥、肝、ト、親、密、ノ、関、係、アリ、ク、肥、肝、病、患、心
者、ハ、性、之、糖、尿、病、ヲ、甚、ス、ル、ヲ、生、殖、器、モ、亦、本、病
ト、関、係、アリ、依、ニ、色、ニ、映、ル、者、ハ、惟、悴、シ、之、ヲ、高、ク、見、ル、者

肥満トシテ

症候、身体肥大、頭部、下、至、二、隆、起、ラ、生、ジ、ラ
所謂、重複、腫、ラ、似、シ、頸、部、ハ、短、縮、ス、腹、部、ハ、膨、滿
シ、肝、ト、シ、テ、ハ、懸、垂、腹、ヲ、呈、ス、其、汗、ノ、為、ニ、モ、下、汗、シ、モ
シ、又、多、汗、ヲ、呈、ス、ル、アリ
尋、常、動、不、注、意、ト、シ、テ、運、動、時、ニ、容、易、ニ、倦、勞、シ、心、悸
亢、進、及、呼吸、困難、ヲ、呈、ス、極、度、心、力、ニ、後、慢、ト、シ、テ
心、跳、ハ、停、止、セ、ル、シ、テ、(脂肪心臓)に、伴、テ、進、速、脈、
脈、搏、動、不、正、並、ニ、結、代、ヲ、呈、ス、之、ガ、為、ニ、甚、ク、病、者、
ハ、熱、性、病、ニ、對、シ、抗、機、能、シ、能、ク、決、心、不、ト、シ、テ、其、之
肝、ハ、極、大、ニ、(脂肪肝臓) 男女、其、多、ク、ハ、注、意、欲、ス、
性、之、其、筋、部、ハ、也、而、シ、注、意、ラ、甚、ス、ル、アリ、又、時、ト

ここの脈強きは著明に及ぶ脈脈病する所併
スルコトアリ

△強心 一般に心不全に

△療法 本病に於ては脂肪の蓄積が起るに
て之ヲ治するに脂肪を原料として合成物と見
て之ヲ減少せしむるに於ては脂肪の分解が起るに
由るが故に心不全に於ては

患者の過食を禁じて脂肪形成物質
の減少を促すに努めんとす。或は心不全に於ては
心不全の徴候を減らすに努めんとす。且つ心不全に於ては
脂肪法に於ては心不全に於ては心不全に於ては
心不全に於ては心不全に於ては心不全に於ては

△心不全に於ては

- (一) ハンデル氏に多量に蓄積、僅少な金水炭素及
若干ノアルコホル用にて之ヲ治す。脂肪ヲ用じしがた
- (二) エプスタイン氏に中等量に蓄積及比較的少量
ノ脂肪ヲ用じしがた。金水炭素ヲ用じしがた。
- (三) 三ツツ氏に大量に蓄積、比較的少量に蓄積
炭素並に少量ノ脂肪ヲ用じしがた。且つ心不全に於ては
一般に心不全に於ては
- △強心 一般に心不全に於ては
- △療法 本病に於ては脂肪の蓄積が起るに於ては
- △強心 一般に心不全に於ては
- △療法 本病に於ては脂肪の蓄積が起るに於ては
- △強心 一般に心不全に於ては
- △療法 本病に於ては脂肪の蓄積が起るに於ては

△強心 一般に心不全に於ては

△療法 本病に於ては脂肪の蓄積が起るに於ては

第四 佝偻病 (英吉利病)

△原因 本病は、生後初期、小児に於て、五歳以上、六歳以下、稀なり。

本病は、濕潤地に多し、トラス、北米本邦、本邦に於て見ゆ。トラスは、稀なり、トラス後、アリ、トラス、近來、富山、島根、北見、秋田、川、秋田、昨部、及、佐、後、國、に於て、本病、地方、病、性、に、流行ス。

△本病の本體は、ホム、カ、明、ナ、ス、其、原因、は、以、テ、中毒、ナ、リ、ト、疑、フ、者、アリ、或、ハ、種、ノ、佝偻、病、ナ、リ、ト、推、測、ス、ル、也、リ、後、因、ハ、空氣、及、日光、ノ、缺乏、ニ、由、リ、濕、氣、多、キ、空氣、汚、劣、ニ、由、リ、粗、食、ノ、食、料、等、ニ、由、リ、生、活、ノ、粗、劣、ノ、食、料、等、ニ、由、リ、即、チ、化、骨、

△解剖 本病は、骨格に特異な變化を呈し、即ち化骨

- 鑑別疾患
- (一) 遺傳梅毒
- (二) バイロ氏病
- (三) 骨軟化症(殊に)
- (四) フリンゲル病
- (五) 小兒性骨軟化症
- (六) 慢性白血病
- (七) 慢性脳水腫
- (八) ベルグ氏ノ所謂假性佝偻病

機轉障礙等、モ、コレ、テ、石灰、分、ヲ、有、セ、ル、骨、様、但、後、ラ、新、生、ス、ル、ニ、ナ、リ、ト、ス、ル、既、チ、骨、質、モ、亦、石灰、ノ、吸收、ス、ル、ニ、由、リ、テ、柔軟、脆、弱、ナ、リ、牽、引、圧、迫、等、ノ、器械、的、心、中、ニ、對、シ、抵抗、弱、ク、種、々、ノ、変、形、ヲ、呈、ス、病、症、減、退、ス、ル、ハ、肥、厚、セ、ル、骨、様、但、後、ハ、急、ニ、石灰、化、シ、骨、端、ニ、肥、厚、ヲ、殘、ス。

△症候 本病は、發生、ハ、徐、々、ニ、シ、テ、屢、ニ、消化、障礙、氣、管、支、加、充、實、ノ、状、態、飛、候、頭、部、ハ、髮、汗、ヲ、多、ク、出、ス、早期、ニ、於、テ、佝偻、病、ハ、目、ト、シ、テ、頭、蓋、ヲ、侵、シ、(頭、蓋、向、後、病、) 頭、蓋、ハ、著、ク、増、大、シ、顔、面、縮、小、ス、前、頭、骨、ハ、殆、ド、鉛、直、ニ、上、方、ニ、向、テ、後、頭、骨、ニ、後、頭、骨、ハ、壓、セ、ラ、レ、テ、扁、平、ト、ナ、リ、頭、蓋、横、斷、面、方、形、ヲ、ナ、ス、(前、頭、症、)

顛門の廣大にして久しう閉鎖を、縫合線の略同し
骨線の堤状に隆起す、後頭部の紙様、菲薄ト
す之の陥凹を、柔地にして往々板状に陥り、如キ
感あり(頭蓋病)後頭部、再々挫く由りて毛髮
脱落す患見往々此症候(瘰癧字)ヲ著ス
ルニアリ頸骨ニ於テモ亦變化アリ下頸ハ弓状ハ
矢ヒテ六角形トナシ、齒牙ノ發生障礙ヤリ著
生の期遅し且不想トナシ

漸次胸廓ニモ亦變化ヲ現ハシ(胸廓の佝僂病)
胸廓柔軟トナリ肋骨ノ肋軟骨端鈕状に隆起
シ上方より下方ニ向ヒテ走り馬形ヲナス(佝僂病性
念珠)胸骨ノ著々前方ニ突出ス(佝僂病性鳩胸)本

患者ハ氣管枝若クハ肺ノ疾患ニ因リ易シ

脊椎モ亦佝僂病性ノ變化アリ多クハ後方ニ彎曲スルニ由
リ(彎曲)稀ニ前方ニ彎曲スルニ由リ、骨
盤モ亦体重ノ圧迫或ハ筋肉ノ牽引ニ由リテ變化ヲ来ス
骨軟化症ニ於ケル如ク骨盤横断面ハ心臓形若クハ嘴
形ヲ呈スルニナリ

鎖骨モ亦變化ヲ著シ其兩端膨出シ雲状に厚ク成ル
トナリ、四肢ノ骨端ハ膨出ス、下肢ニ種々ノ屈曲ヲ呈シ
或ハO字形或ハサト心状、膝内靱帯又脚トナリ、斯
ノ如ク骨格ニ變化ヲ来スヲ以テ運動ノ障礙ヤリ
勿論ナリ

本病ニ罹ルル小兒ハ多クハ多クハ此ノ如クノ障礙ニ腹

膨大、骨節、身体運動、缺乏、却、能、其、育、入、血液、中、白血球、増加、赤血球、減少、往、慢、膨、肥、大、し、了、患、見、其、深、し、易、キ、飲、アリ

△**経過** 慢性

△**診断** 本病、骨、変化（方、頸、後、頸、痛、歯、叢、生、障、碍、急、殊、鳩、胸、脊、柱、及、骨、盤、之、変、化、四肢、変、形、等）ニ、依、リ、テ、安、易、ニ、診、断、ラ、ス、ト、シ、ト、マ、
ニ、本、病、稀、有、ナ、ル、本、邦、ニ、於、テ、本、病、其、所、期、ニ、診、断、ス、ル、固、難、ナ、リ、了、本、病、多、キ、上、地、ニ、ハ、齒、牙、叢、生、障、碍、頸、部、変、形、慢、性、下、疳、依、リ、骨、性、潜、伏、性、佝、偻、病、ヲ、診、断、シ、ル、ト、ス、
△**豫後** 凡、良、ク、ア、リ、骨、盤、変、形、一、定、交、マ、ル、

恢復、ス、ル、女子、ニ、ア、リ、テ、骨、盤、変、形、ヲ、甚、ス、ル、為、ニ、特、殊、
を、施、ス、障、碍、ヲ、去、ス、ト、シ

△**療法** 豫後法 食、餌、之、意、シ、ル、光、及、空、気、ヲ、十、分、ニ、供、給、シ、皮、膚、損、害、ニ、注、意、ス、ト、シ、
瘡、疔、ハ、食、餌、ヲ、忌、ム、日、光、及、空、気、早、ク、十、分、ニ、供、給、シ、且、時、々、入、浴、セ、ル、ト、シ

△**本病ニ特效薬ナシ** 薬劑、ニ、テ、多、ク、用、ヒ、ル、ハ、石、炭、燐、及、肝、油、ナ、リ

△**本病患者ラニテ器械的障碍ヲ除ク** 心、骨、變、形、ト、ス、ル、柔、軟、ク、後、頸、ニ、對、シ、テ、中、央、四、ノ、枕、ヲ、用、ヒ、或、ハ、環、枕、ヲ、用、ヒ、ト、患、者、ヲ、抱、持、ス、ル、ハ、胸、廓、ヲ、屈、シ、座、セ、ト、
△**脊、柱、胸、廓、骨、盤、ヲ、傷、ム、事、行、セ、ル、ハ、脚、ヲ、損、ス、ル、恐、**

○**骨、軟、化、症**

了政之務助を以て

第五 骨軟化症

原因及解剖 本病は既に其音に於て骨髄に

石灰質を失ふことにより骨質が軟弱となり

脆性を失ひ骨の折れ生ずる事あり

田代教授は、佝僂病は骨軟化症と同し

本病は真因は佝僂病と同し

悪食食物光線不足は且溼潤を促し其原因

骨は石灰を失ふ事あり

骨は石灰を失ふ事あり

骨は石灰を失ふ事あり

- 一 脊髄を
- 二 瘰癧性脊髄病
- 三 ステロイド
- 四 女性瘰癧
- 五 瘰癧性瘰癧
- 六 坐骨神経痛
- 七 佝僂病

骨軟化の内容より始まるモ、此は髓腔より外方進行し、

元氏細管より周圍部に向て進行す、骨膜下部は

モ、之より強固なる骨皮質を有するに、モ亦骨軟化症

骨髓は初期は充血し、漸次脂肪変性し、

色となり、灰白膠様を呈し、甚しき流動性を呈す

是種性骨軟化症に於ては、骨髄は是より早く侵され

且其侵せん、一骨を劇甚なり之は、次は脊柱胸廓

及四肢に病変を及ぼす、非種性骨軟化症に於ては、

骨の軟化は、脊柱又胸廓より始り、次は骨髄を侵す

本病に於ては、尿酸は、骨を侵す

症候及経過 本病は、初期は、

其第一、痛候は、疼痛は、

此鈍痛なり妊婦本病痛し者其骨盤及骨部疼痛ヲ訴フ之其後其疼痛骨に迫るルヤリ時トシテ疼痛亦經痛様トナリ或ハ筋肉痠麻痺斯様トナリ或ハ骨の軟弱及圧痛ハ診斷上重要ナル症候トシテ外行長時休息俟坐又ハ横臥ハ疼痛ヲ甚スレトナルヲ患者之ヲ厭忌ス

疼痛他衰弱疲勞及筋肉緊張アリ外行蹠跗トシテ恰モ鴨ノ歩ムカキ姿觀ハルルハ前方ニ傾斜シ患者之ガ為ニ上肢ヲ支ズラセムニ由リ脊椎ハ高平トナリ云々曲シ(好キ者)殊ニ頸部ニ於テ顯著ニシテ頸部ハ前胸面ニ倚靠スルニ由リ

之カ為ニ軀幹短縮ス骨盤ニ於テ著骨岬隆ク骨盤腔内ニ陥入シ腸骨窩部ハ強ク内方ニ向ヒ骨造後部ハ嘴狀ヲナシテ前方ニ突出シ骨盤ノ横断面骨髌ノコトトシテ形ヲ呈ス之カ為ニ腕ヲ障礙スルニ由リ之ハ腸腸及直腸ヲ壓迫スルニ由リシレド月經及受胎ハ多クハ碍ナラズ

△**徑過** 慢性ニテ妊娠時ニ増悪シ其死因ハ衰弱呼吸及循環障礙ヲ稱疾ナリ
△**診斷** 完全ニ忘ル於テハ其後候固有シテ早期診斷ハ屢ニ困難ナリ

泉病

療法 一般衛生法ニ依リ、栄養及皮膚、
着意シ、注意スルニ安シ、静ニ甚メ必クシラ成ルニ至ラ
ラシキケトシ、**浴療法**、效ラズスルコトアリ

葉刺、**肝油**ヲ補用スルコト必ク
ナリ、**文胎**ヲ防グニアリ、**妊娠**シキ場合ニ婦人科
的ニ処ラズスルコトアリ、**葉刺**、**效ナキカ**或ハ**危重**
ノ症候ノ存在スル中ニ**卵巢**、**摘出**ヲ補用スルコトアリ

第六、腺病 (瘰癧)

原因 本病ハミトシテ小兒ヲ侵ス、**瘰癧**ニシテ慢
性**淋**、**巴**、**腺**、**腫**ヲ成シ、且好シテ**皮膚**、**粘膜**、**骨**、**骨**
質ヲ侵ス、本病ハ元素特殊ノ疾患ニアラス、コレ集
合症候ヲ成ル、其症状ハ多様頑固ニシテ慢性ニ

- 鑑別疾患
- (一) 白血病
- (二) 假性白血病
- (三) 梅毒

経過ニ且又**反覆**ニ傾向アリ、其**病原**ハミトシテ
結核菌、**傳染** (結核性症) ニ由ルモノナリ、或ハ
化膿菌 (化膿菌性症) ニ由ルコトアリ、又兩者、**混合**
傳染 (混合性症) ニ由ルコトアリ

腺病、**体質**、**屢**、**遺傳**、**結核**、**徴毒**、**疾**
衰弱、**者**、**晚**、**婚**、**者**、**近親**、**相**、**婚**、**者**、**酒**、**客**、**少**、**飲**
公、**集**、**本**、**病**、**ニ**、**由**、**ル**

本病ニ因リ、凡テ不衛生的外因即チ不良ノ乳汁
粗劣ノ食物、新鮮ニ空氣及日光線ヲ受ケ、**疾**
全、**運**、**動**、**不**、**足**、**育**、**少**、**法**、**不**、**良**、**例**、**也**、**ハ**、**學**、**課**、**ノ**
運、**重**、**感**、**冒**、**頻**、**回**、**及**、**覆**、**テ**、**リ**、**其**、**他**、**傳**、**染**、**疾**
殊、**ニ**、**肺**、**疾**、**石**、**口**、**咳**、**等**、**本**、**病**、**ヲ**、**誘**、**成**、**ル**、**コ**、**ト**、**思**、**フ**

原因ハ後述ノ如ク、**行**係ヲ容易トシムルモノニ
症候 本病ハ**腺病**ノ變ヲ現ス、而シテ之ニ
二種歟、

(甲) 鈍性腺病

豊満ニ外弱ヲ見シ、口唇ハ肥厚、**飄轉**シ、鼻大ニ
動心後慢ニシテ、**腦力**産鈍ナリ

(乙) 鋭性腺病

顔貌瘦削シ、皮膚柔軟蒼白ニシテ、**前額**及**胸部**ニ
於テ**靜脈**ヲ透見セシメ、**些少**ノ**形**ヲ由テ之ヲ
面微紅ス、**爪**華燈ハ常青白色ニシテ、**異**ナルトモ、**光**澤
アリ、**其**他ハ**法**漢**鏡**故ナリ

腺病ノ**致**部ヲ於ケル**淋巴腺**腫脹シ、**豌豆**大乃至

脾痛

鳩卵大或ハ其以上)中子、硬交ラ有シ、**疼痛**ヲ甚セ
ザレ**團塊**形成、**化膿**ヲ甚クシ、**氣管**枝腺
腫脹ス、**肋骨**把柄部、**渴**苦ヲ甚クシ、**且**圧迫ニ
由リテ、**多**言**支**持、**心**悸、**不**睡、**在**脾、**頸**部、**筋**、**血**行、**障**碍ヲ甚クシ、

其他腸間膜腺腫脹ニ由リテ、**所**謂腸間膜痛、**脾**痛ノ**症**候ヲ甚クシ

患者ハ**頑固**ニ下痢ヲ甚クシ、**食**料ヲ食スレバ、**舌**爛、**瘦**
ミ、**腹部**甚ク膨満ス、**強**ク圧スレバ、**腸**間膜腺ヲ觸
知シ、**好**ム、**ア**リ、**腺**腫脹ハ之ヲ**法**換ニ因スルモノ
ナレバ、**時**トシテ、**然**ラザル、**ア**リ、**粘**
皮膚ニ**頑固**、**濕**疹、**痕**痕、**苔**癬ヲ甚クシ、**ア**リ、**粘**

腫ニ鼻加唇ノ、結腫也、眼腫縁也、咽喉加唇也、扁桃腺肥大、中耳炎等ヲ云フ、

易シ

骨及關節モ屬侵サレ、多クハ既ニ純然ナル慢性ナリ、骨ニ骨髄ノ侵サレ、骨根太ク、骨ノ様骨ノ病ナリ、殊ニ骨ノ腫脹ヲ云フ、

△経過

慢性ニシテ多年ニ亙ル

△診断

本病ノ慢性ナルヲ否決慢性ナリヤラ

△鑑別

一區別スルニ、因難ナリ、然レモ、後、梅毒治癒ニ依ル

△豫後

多クハ寛チ、セド、後、貽後病殊ニ慢性

換テ、其スルニ、然アリ

梅毒的ニシテ、ハ、外因ニテ、本病ニ罹ル者ハ、適当ニ、瘡

法ヲ更スルニ、其、終、存、在、チ

△療法

豫防法 本病ノ原因アルモノハ、食餌、

新、鮮、な、空、氣、及、日、光、ノ、供、給、皮、肉、ノ、損、傷、ヲ、

注意スルニ、夏、日、ハ、お、肌、ヲ、海、水、浴、ヲ、サ、シ、ム

其、瘡、法、ト、シ、テ、ハ、既、ニ、其、病、ヲ、治、ス、ル、ニ、モ、局、所、瘡、

法、ヲ、モ、衛、生、食、餌、療、法、及、身、体、鍛、練、ヲ、必、要、

ト、ス、

本病殊ニ慢性ナル者ニ、是ニ、肝油ヲ、特、用、ス、

其他、ス、コ、ト、肝油、乳、劑、ト、シ、テ、モ、亦、用、ス、

肝油、久、シ、ク、服、用、ス、ル、ハ、消、化、障、碍、ヲ、惹、起、ス、ル、ハ、多、ク、ハ、

冬、期、ニ、限、リ、テ、用、ヒ、且、時、々、(ニ、三、週、間)尚、歇、ス、

鈍性ノ者ハ法度前ヲ用フ

會宜性ノ者ハ鐵前ヲ用フ、砒石モ亦用ヒス

塩法(水一石ニ付食塩升ノ動)ハ皮子ヲ強固トスル

新陳代謝ヲ促進スルニテ大ニ補用セラル、本邦

如ク海濱ニ富ム地ニテ海水浴ヲ為サシク七月半

旬ヨリ八月中旬マデテ海水浴ノ最好時期トス

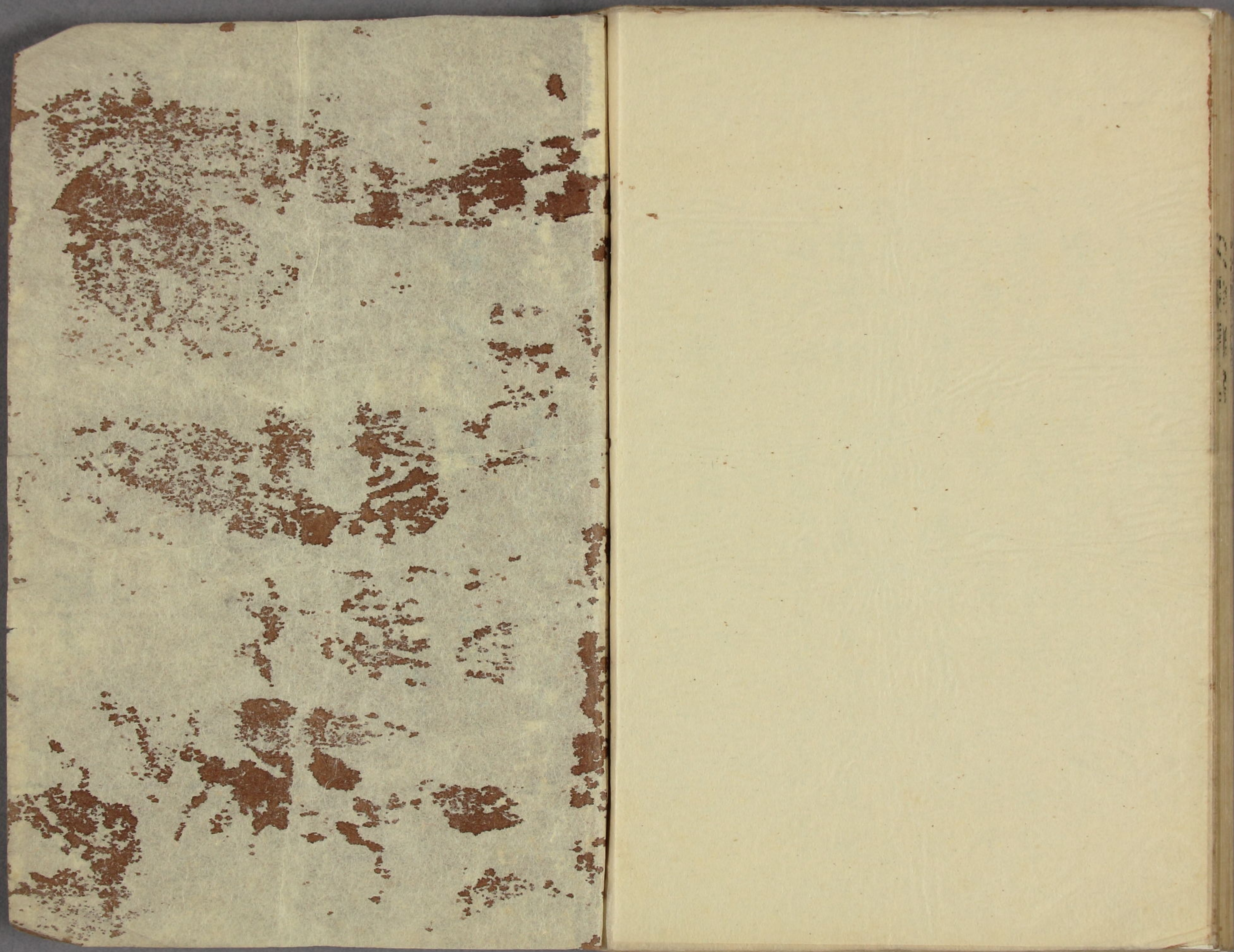
森林、山嶽、富兵ニ亦佳良ナリ

脚腫ニ對シテハ法度下段、法度後段、法

度加里、法度、法度、加里、加里、加里、加里

シ外用ス

頑固ナル脚腫ハ剔出スルニ



此丸

痛風

白濁

尿毒

腎山

腎毒

三石丸
研究

松本
精養書院

山子

松本

腎毒

山子

腎毒

山子

山子